



POD[®] HD300 & POD[®] HD400



アドバンスド・ガイド

POD HD300とPOD HD400の特徴や機能についての詳細

エレクトロフォニック限定版

目次

セットアップに関する詳細	1・1
Setup オプション	1・1
ペダル・キャリブレーション	1・4
初期設定に戻す (Factory Restore)	1・5
特徴 & 機能	2・1
チューナー・モード	2・1
スマート FX	2・2
ノイズ・ゲート	2・3
ボリューム	2・3
FX Loop (POD HD400 のみ)	2・4
タップ・テンポ	2・4
ペダル・コントロール	2・4
L6 LINK™	2・5
OUTPUT MODE オプション	2・6
POD HD Edit ソフトウェア	2・7
プリセットを使って作業をする	3・1
プリセットへアクセスする	3・1
プリセットの保存	3・3
エディット・モード	4・1
エディット・モードにアクセスする	4・1
SETUP メニュー	4・2
AMP メニュー	4・2
FX1、FX2 & FX3メニュー	4・2
REVERBメニュー	4・3
Gateメニュー	4・3
WAH メニュー	4・4
VOL メニュー	4・4
FX Loop メニュー (POD HD400 のみ)	4・5
MIDI DUMP	4・7

アンプ、キャビネット& マイクモデル.....5・1

パラメーターの詳細	5・1
AMP エディット・モード.....	5・2
Manualモード	5・7
FX Onlyモード	5・7
AutoFX パラメーター	5・8
アンプ/プリアンプ・モデル	5・8
キャビネット・モデル.....	5・10

エフェクト・モデル6・1

FX1モデル - リファレンス表.....	6・1
共通FX1、FX2 & FX3 パラメーター	6・3
新しいFX1モデル(フラッシュ v.2.0).....	6・4
FX1 GAIN スラッシュ・モデル - パラメーター.....	6・5
FX1 VARIOUS スラッシュ・モデル - パラメーター	6・5
FX1 PITCH スラッシュ・モデル - パラメーター	6・7
FX2モデル - リファレンス表	6・11
共通 FX2 パラメーター	6・12
共通 FILTER スラッシュ・パラメーター	6・14
FX3モデル - リファレンス表.....	6・14
共通 FX3 パラメーター	6・15
Reverbモデル - リファレンス表	6・16
共通 Reverb パラメーター	6・17
Wahモデル	6・18

ルーパーを使う7・1

ルーパー・コントロール	7・1
-------------------	-----

USB オーディオ.....8・1

Line 6 USB オーディオ・ドライバー	8・1
Line 6 Audio-MIDI Devices パネル	8・3
Mac® - Line 6 Audio-MIDI 装置.....	8・4
Windows® - Line 6 Audio-MIDI デバイス.....	8・9

付録 A: Line 6 Monkey™A•1

- Line 6 Monkeyを起動する.....A•1
- ログイン・アカウントA•1
- アップデートを入手する.....A•2

付録 B: MIDIB•1

- MIDI SysEx 機能.....B•1
- MIDI Dump - プリセットをバックアップするB•2
- プリセットを送り返す.....B•2

Line 6、POD、DT50、DT25、Vetta、CustomTone、Variax、L6 LINKおよび Line 6 Monkeyは、Line 6、Incの登録商標です。その他の全ての製品名や商標名、アーティスト名は各社が所有しており、Line 6との関連や提携関係はありません。製品名や画像、アーティスト名は、Line 6が本製品向けにサウンド・モデルの開発を行った際に研究したトーンやサウンドを識別するためにのみ使用されています。これらの製品や商標、画像、アーティスト名の使用は、協力関係やエンドースを暗示するものではありません。

セットアップに関する詳細

この章では、POD® HD300とPOD HD400の Setup画面に表示される、オンボード・ペダルの調節とファクトリー・リセットの実行方法といったオプションについて説明します。

このガイドは、フラッシュ・メモリー・バージョン2.0がインストールされている POD HD300& HD400デバイスを対象として説明を行っています。Line 6 Monkey™を使用して、入手可能な最新のフラッシュ・メモリー・バージョン&アップデート全てをインストールすることを強くお勧めします。[A・1ページの「付録 A: Line 6 Monkey™」](#)をご覧ください。特別な明記がない限り、このガイドに記載されている内容はPOD HD300 & HD400の両製品を対象に記載されています。

Setup オプション

Setup画面は、POD HDのためのシステム設定を行う場所です。大部分のオプションは、システム設定を終えた後でもそのまま残しておくことができます。それらは電源を入れるたびに呼び出され、設定は「グローバル」です（設定は現在選択されているプリセットに関わらずに維持されます）。Setupオプションにアクセスするときは、**PRESETS**ノブを押し、ナビ・ディスクの左/右矢印ボタンを使用してSETUPメニューを選びます：

◀▶ 左/右を使用してSETUP
メニューへ進みます

▲▼ 上/下を使用して次/前
のSETUPパラメータ
を選びます。



ノブを押しエディット・
モードへ入ります。

ノブを回して、選択した
アンプのセッティングを
変更します。

Output Mode - Live オプション



POD HD本機の背面にある**OUTPUT MODE**スイッチを使用して**Live**モードを選びます(2・6ページの[「OUTPUT MODEオプション」](#)参照)。次に、使い方に最も合うセッティングを選んでください。

- **ComboFrt:** 典型的なコンボ・アンプのフロント・インプットへ接続します(これはデフォルト設定です)。
- **ComboAmp:** コンボ・アンプのパワー・アンプへ接続します。
- **StackFrt:** 典型的なアンプ・ヘッドのフロント・インプットへ接続します。
- **StackAmp:** アンプ・ヘッドのパワー・アンプへ接続します。

AutoFX



- **AutoFX - Disabled:** アンプ・ノブを通じてアンプ・モデルを選ぶと、現在のエフェクト・モデルやセッティングは変更されません。
- **AutoFX - AmpSetFX:** アンプ・ノブを通じてアンプ・モデルを選ぶと、エフェクト・モデル&セッティングは選んだアンプ・モデルのために割り当てられているデフォルト値に自動的に変わります。

USBモニター・レベル



POD HDをコンピュータと共にUSBオーディオ・デバイスとして使用する場合、このオプションで処理したギター・トーンのアウトプットのボリュームを、モニター用にコントロールすることができます。詳細に関しては、[8・1ページの「USB オーディオ」](#)をご覧ください。

フットスイッチ・モード

◀▶ SETUP
↕FSMode ● Normal

◀▶ SETUP
↕FSMode ● Hold4Lpr

MODEフットスイッチがどのように「プリセット」、「ペダル」、「ルーパー」フットスイッチ・モードへアクセスするのか、2種類の動作が用意されています。(MODEフットスイッチに関する詳細は、POD HDの**パイロット・ガイド**も併せてご覧ください。)

- **Normal:** **MODE**フットスイッチをクリックするたびに、3つのモードの中から1つの「ノーマル」動作を設定します: プリセット・モード (緑 LED)、ペダル・モード(黄 LED)、ルーパー・モード(赤 LED)
- **Hold4Lpr:** 代わりに動作として、**MODE**フットスイッチをクリックすると、プリセットのみか、ペダル・フットスイッチ・モードを選択することができます。**ルーパー・モードに入る**ときは、MODEフットスイッチを長押しします。ルーパー・モードから抜けるときは、MODEフットスイッチを再びクリックします。

AC Rate

◀▶ SETUP
↕ACRate ● 50Hz

◀▶ SETUP
↕ACRate ● 60Hz

全てのPOD HDアンプ・モデルには、真空管のヒーター部品に特有のAC ハムのシミュレーションが含まれています。これは真空管アンプのトーンに不可欠な要素です。リアルさを出すには、USA(**60Hz**)またはUK(**50Hz**)の周波数にAC比を合わせてください。

注意: この設定は、アンプ・モデルの設定によっては微妙な効果となる場合もありますが、POD HDと接続する真空管アンプのAC比とマッチさせると、より明白になることもあります。

Tap Tempo Light

◀▶ SETUP
⬆TpLite AlwaysOn

◀▶ SETUP
⬆TpLite Flash 8

- **TpLite - AlwaysOn:** 本機のTAPライトが一定間隔で点滅し、現在のテンポ設定を示します。
- **TpLite - Flash 8:** 新しくテンポ値を設定すると、直ちにTAPライトが8回のみ点滅し、その後消灯します。

ファームウェア・バージョン

◀▶ SETUP
Version 2.0

ここに現在のファームウェア・フラッシュメモリー・バージョンが表示されます。これは情報画面のみの表示です。

ペダル・キャリブレーション

注意: たった今初期化を行ったばかりという場合 (下記参照)、その工程にはペダルの調整も含まれているため、以下の手順を実行する必要はありません。とはいえ、ペダルの調整はいつでも以下の手順で行うことができます。

POD HDのペダルを実際に使用するにあたり、その機能を十分に発揮させるためにペダルの調整を行うことをお勧めします。まずPOD HDの電源をオフにします。Dフットスイッチを押しながら、ユニットの電源を入れ、LCD画面に以下が表示されることを確認します:

PedalCalibration
Prs ChD to begin

[1-5ページ](#)のFactory Restoreの手順5までスキップし、ここから残りの手順に従ってペダルの調整を行ってください。

初期設定に戻す (Factory Restore)

POD HDを最初の初期設定に戻すにあたり、保存したいプリセットがある場合は、先にバックアップを行い([2・7ページの「PODHD Editソフトウェア」](#))、次に以下の手順で操作を行います:

注意: この工程でもペダルの調整を実行するため、Factory Restoreを行う場合は、以下に記載されている操作を全て手順通りに行う必要があります。しかし、ペダルの調整のみを行いたい場合は、[1・4ページの「ペダル・キャリブレーション」](#)を参照してください。

1. 先ずPOD HDの電源をオフにします。**A**フットスイッチを押しながら、ユニットの電源を入れ、LCD画面に以下が表示されることを確認します:

Push PRESETS for
factory restore

2. **PRESETS**ノブを押し、以下の表示を確認してから再びノブを押します:

Sure? Press
PRESETS if yes

3. LCD画面に復元の進行率が % 値で表示されるのを確認します。この工程中、本機のコントロール類には手を触れないでください。

Restoring 32%
factory settings

4. 値が100%に達した後、ペダルの調整を開始するように促す表示が出ます。**D**フットスイッチを押して設定を続けます。

Pedal Calibration
Prs ChD to begin

5. 次にペダルの「**トウ**」スイッチを長押しするように促す表示が見えます:

Press and Hold
the toe switch

6. トウ・スイッチがクリックするように奥までしっかりとペダルを踏み込み、この位置で数秒間そのままの状態を保つと、次の手順を促す表示が見えます。

Pedal to MIN pos
and press ChD

7. 指示通りにペダルを動かして「ヒール」位置を最小値に設定し、次にDスイッチを押します。

Pedal to MAX pos
and press ChD

8. ペダルを前方最大値の位置へ動かして（トウ・スイッチは**クリックさせずに**）、Dを押します。
9. この時点でペダルの調整は終了ですが、保存はされていません。調整が正しく行われていれば、ペダルを動かした時に0～127までの値がLCD 画面に表示されます。

Check Val: 127
Prs ChD to save

7. 調整が全て正しければ、Dスイッチを再び押して保存を実行します。

Pedal Calibrated

デバイス自体が最初期化を行い、プリセット画面が表示される間、そのままお待ちください。工程はこれで終了です！

特徴 & 機能

ハードウェアのコントロール、インプット&アウトプットに関する基本については、デバイスに含まれているパイロット・ハンドブックで最初に見直しておくことをお勧めします。この章ではPOD® HD300 & POD® HD400に備わっている主な特徴と機能について詳しく説明します。

2・1

チューナー・モード

チューナーは**MODE**フットスイッチが「ペダル・オン/オフ」か「プリセット」モードに設定されていれば利用可能です。Tunerモードに入る場合は、**TAP**スイッチを長押しします。*ボリュームは Tunerモードに入っている間はミュートされるため、デバイスから音は聞こえません。

注意: 「Looper」モードで**TAP**ボタンを長押しすると、「Clear Loop」機能が作動します。詳細は7・1ページの「ルーパーを使う」をご覧ください。

ギターをそれぞれ弾いてみてください。右を示す矢印が表示された場合、音はフラット、左を示す矢印が表示された場合は音がシャープであることを意味します。矢印の表示が少ないほど、基準ピッチに近いことを意味します。*が2つ表示されていれば、弦のピッチが合っていることを意味します。



フラット



ピッチが合っている



シャープ

チューナー・モードを終了するときには、**TAP**スイッチかフットスイッチのどれかを押しします。

スマート FX

2・2



FX1、FX2 & FX3ノブはその巧妙なデザインから、「スマートFX」コントロールと呼ばれています。これらの3つのノブのいずれかを回すだけで、現在割り当てられているエフェクト・モデルの1つと、便利な構成済みのセッティングを素早く読み込むことができます。FXノブを最低値まで反時計方向に回すと、エフェクトは無効になります。

ノブの回りにラベルで記されているように、各FXノブには3種類の「スワッシュ」・カテゴリーが用意されています。それぞれのスワッシュに1つのエフェクトが割り当てられていて、FXを回すとLCD画面に表示されます。次のセクションで説明するように、エフェクト・モデルはどれもカスタマイズすることができます。

各FXスワッシュ・カテゴリーの中で利用可能な全てのFXモデルの詳細は、[6・1ページの「エフェクト・モデル」](#)を参照してください。

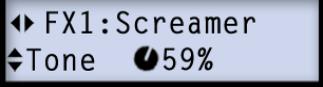
FXをカスタマイズする

- ・ **「スマート」機能を使う** - FX1～FX3ノブを回すと、LCD画面にはFXノブのスワッシュ・カテゴリー内の現在のエフェクト・モデル名と、そのセッティングの「度合い」を示すバーが表示されます。



- ・ **エフェクト・モデルを変更する** - 前述のように、それぞれのスワッシュ・カテゴリーには、最初からデフォルト・モデルが読み込まれています。しかし、各スワッシュ内のいくつかのモデルの中から選ぶことも可能です。エフェクト画面の表示中に**PRESETS**ノブを回して、好みのエフェクトを選びます。新たな選択は、保存されたプリセット毎に、エフェクト・スワッシュの位置に保存されます。FXノブのスワッシュのLEDの色が緑色に(2番目のモデルが選択されている場合)、または黄色(3番目、または以降のモデルが選択されている場合)に変わり、そのスワッシュのモデルが「カスタマイズされた」ことを知らせます。

- ・ **エフェクト・モデルのパラメーターをエディットする** - **PRESETS**ノブを押してエディット・モードに入ること、エフェクト・モデルに用意された数々のパラメーターにアクセスすることができます。[4・1ページの「エディット・モード」](#)をご覧ください。



◀▶ FX1: Screamer
 ⇅ Tone 59%

- ・ カスタマイズしたエフェクト・セッティングを維持したい場合は、新しいプリセットを呼び出す前に保存してください。

ノイズ・ゲート

POD HDには余計なノイズを削減するための2つの便利なツールが含まれています: ノイズ・ゲートとノイズ・リダクション (NR) これらのツールとその設定は、エディット・モードからアクセスすることができます [4・3ページの「Gateメニュー」](#) 参照。GATE設定は、各プリセットと共に個々に保存されます。



◀▶ GATE
 ⇅ Mode Gate+NR

ボリューム

POD HDのボリューム・エフェクトはオンボード・ペダルと同様に、アンプ・モデルの「Pre」や「Post」位置でコントロールすることも可能です! ペダルを前方へ移動させ「トゥ・スイッチ」をクリックすれば、**WAH**と**VOL**エフェクトの割り当てが切り替わります。これらのオプションはプリセット毎に保存されます。ボリューム・エフェクトの設定はエディット・モードの中でアクセスします [4・4ページの「VOLメニュー」](#) 参照。



◀▶ VOL
 ⇅ Routng Pre

FX Loop (POD HD400 のみ)

POD HD400に内蔵されているエフェクト・ループは、「Pre」や「Post」の位置決めとレベル・コントロールを含め、いくつかのオプションと共に設定することができます。これらの設定は、エディット・モードからアクセスします [4・5ページの「FX Loop メニュー \(POD HD400 のみ\)」](#) 参照。



タップ・テンポ



タップ・テンポとは、POD HDデバイスの**TAP** フットスイッチを経て設定可能な「システム」テンポ値を指します。リズムカルにTAPフットスイッチを踏んでテンポを設定します。このテンポはプリセット毎に保存されます。

TAPスイッチのLEDが点滅し、現在のテンポを示しているのがわかります。FX2とFX3モデルセットは、これらのエフェクトのモジュレーション・スピードとディレイ・タイムをそのテンポに同期させるための、TapCtl設定がそれぞれに用意されています。詳細は、[6・12ページ](#)と[6・15ページ](#)のFX2とFX3の「共通パラメーター」の説明をご覧ください。

ペダル・コントロール



オンボード・エクスペッション・ペダル(及びPOD HD400用の追加ペダル2)は、ボリューム、ワウ、FX1 Pitch Glideエフェクトへ割り当てることができます。ペダルは大部分のプリセットに対し、**WAH**モードではWahモデルを、**VOL**モードではVolumeモデルをコントロールするように予め構成されています。ペダルの「トウ・スイッチ」をクリックすることで、これら2種類の機能が切り替わり、デバイスのWAHかVOLLEDが点灯して現在のモードを示します。

Pitch Glide

これらのWAHかVOLモードのどちらでも**Pitch Glideモデルをコントロール**するように割り当てることができます。このペダル割り当ての設定は、そのモデルのエディット・モード設定の中で見つけることができます。[6・8ページの「PitchGlide」](#)を参照してください。ペダルのアサインは、各プリセットと共に個々に保存されます。Pitch Glideエフェクトのコントロールを行うと、**WAHとVOLLED**の両方が点灯します。

PEDAL 2 (POD HD400 のみ)



POD HD400背面の**PEDAL 2**端子に、エクスプレッション・ペダル(Line 6 EX-1等)をもう1台接続することができます。2台目のペダルを接続すると、**WAH**モードがオンボード・ペダルへ割り当てられ、**VOL**はペダル2へ自動的に割り当てられます。WAHとVOLLEDの両方が点灯してこの状態を示します。WAH **か** VOLモードのどちらでも Pitch Glide エフェクトに割り当て、そして割り当てたペダルでコントロールできることを覚えておいてください。

L6 LINK™

全てのPOD HDデバイスに含まれている画期的な新しい機能が**L6 LINK**です。自分のトーンをLine 6 DT50™やDT25™チューブ・アンプへ送ったり、離れた場所からDTシリーズ・アンプの機能をコントロールする能力も備えています。標準XLRケーブルを1本使用して、POD HD背面のL6 LINK端子から、直接DTシリーズのアンプに接続します。L6 LINKの詳細は、<http://jp.line6.com/software/manuals/>から入手可能な追加マニュアルをご覧ください。



L6 LINK端子

OUTPUT MODE オプション

背面に位置する**OUTPUT MODE**スイッチを使用してアナログ**BALANCED OUTPUT**、**UNBALANCED OUTPUT***、**PHONES**端子、**USB Record Send**と**L6 LINK™**端子へ送られるオーディオ信号タイプを変更することができます。



OUTPUT MODEスイッチ

背面に位置する**MASTER VOLUME**ノブでこれらアウトプット全体のレベルをコントロールします。OUTPUT MODEセッティングを使用する際のヒントをいくつかご紹介します。

注意: **UNBALANCED OUTPUT**端子間に位置するハードウェア**LINE <-> AMP**スイッチを使用して、これらのアウトプットから送られる信号レベルを最適化することができます。

- LIVE モード:** このモードで、アナログ・アウトプットは、選択したアンプと特別にボイスした「ライブ」キャビネット・バージョン(マイク・モデル無し)を含む信号を送ります。これは外部ギターアンプへ直接インプットするのに最も適しています。LIVEモード用に、接続しているアンプ・タイプを特定する追加オプションがあります([2・6ページの「OUTPUT MODE オプション」](#)参照)。

ヒント: このLIVEモードは、アナログ・アウトプットを外部チューブ・アンプと接続したり、**L6 LINK™**を使用してLine 6 DTシリーズのアンプを接続するときにお勧めしたいセッティングです([5・3ページの「AMP Modelモード」](#)参照)。

- STUDIO モード:** このモードで、アウトプットは選択したアンプ、キャビネット、マイク、エフェクト・モデルを含めた処理済みの信号を送信します。DAWソフトウェアへの録音にUSB接続を使用する場合は、アナログ・アウトプットを録音や P.A.装置へ接続するのが最も良い選択です。
- DUALモード (POD HD300):** このオプションでは、LIVEモードの信号を**BALANCED L/MONO&UNBALANCED L/MONO**アウトプットへ、マイクで通した優れたサウンドのアンプ・トーンを**BALANCED RIGHT & UNBALANCED RIGHT**アウトプットへヘルートさせることによる、さらに柔軟性の高いパフォーマンスを得ることができます。これにより、マイクを通したモノラルのキャビネット信号をミキサーや録音機器へヘルートさせながら、同時にギター・アンプ用に調整したモノ信号を送ることができます！

- DUALモード (POD HD400):** このオプションでは、LIVEモードの信号を、左&右 **UNBALANCED** アウトプットへ、そしてマイクを通した優れたサウンドのアンブリーションを、左&右 **BALANCED** アウトプットへルートさせる、さらに柔軟性の高いパフォーマンスを得ることができます。これにより、マイクを通したキャビネット信号をミキサーや録音機器へルートさせながら、同時にLIVE信号をギター・アンプへ送ることができます！

POD HD Edit ソフトウェア

line6.jp/softwareへアクセスし、Mac®とWindows®コンピュータ用の無償パッチ・エディター/ライブラリアン・ソフトウェア、**Line 6 POD HD300 Edit**や**POD HD400 Edit**をダウンロードしてください。POD HD Editを利用することで、トーン・プリセットの作成、オーディション、カスタマイズ、バックアップ、復元を簡単な操作で行うことができ、本機にトーン・プリセットを数に限りなく保存することができます。



POD HD400 Editアプリケーション

プリセットを使って作業をする

POD® HD300 & POD® HD400は、最大128種類までのプリセットをデバイスの内蔵メモリーに保存することができます。これらのプリセットは01Aから32Dまでのバンクとメモリーの位置で見つけることができます。この章では、プリセットへのアクセス方法と保存の仕方を説明します。プリセット内に保存されている多数のトーン・パラメーターのエディットについての詳細は、[4・1ページの「エディット・モード」](#)を参照してください。

3・1

プリセットへアクセスする

POD HD300/HD400には32個のバンク(1~32)があり、それぞれに4個のメモリーが含まれています(A、B、C、D)。各位置で1つのプリセットを保存することが可能です。プリセットにアクセスする場合、コントロールを使用するか、フットスイッチを使用する2通りの方法があります。

コントロールでプリセットを選択する

4方向ナビ・ディスク・ボタンと**PRESETS**ノブを使用してプリセットを移動し、読み込みます。



黄色のLEDインジケータとLCD画面の最上段で、現在のプリセット・アドレスを示します。◆ナビ・ディスク機能を使用して、バンクを1つずつ表示させながらプリセットに目を通します。

画面下段に現在のプリセット名が表示されます。PRESETSノブを使用してプリセット・チャンネルをスクロールします。

バンク&チャンネル・フットスイッチ

POD HDフットスイッチをプリセット・モードの中で配置すれば、下方の(緑)LEDが点灯するまで**MODE**フットスイッチを踏むことでプリセットをハンズフリーで選択することができます (1・3ページの「[フットスイッチ・モード](#)」参照)。これにより、4個のフットスイッチが**A、B、C、D**のメモリー・スイッチとして機能するように設定されます。



緑のLEDは、プリセット・モードを示します

点灯しているA、B、C、D フットスイッチは選択したメモリーを示します

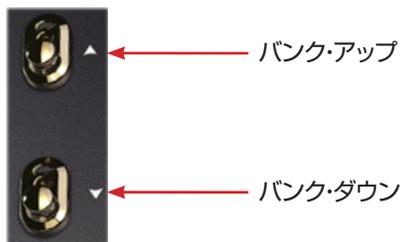
A、B、C、Dスイッチを押すと、現在選択したバンク内のそのチャンネル位置が即座に呼び出されます。例えば、LEDが**12A**を表示している場合、バンク12が現在のバンクとなり、スイッチ A、B、C、Dでプリセット**12A、12B、12C、12D**をそれぞれ読み込みます。バンクの切り替えは、POD HD300とPOD HD400デバイスでは異なります：

POD HD300 バンクの選択: 現在のバンクからバンク番号の大きい数字へバンク・アップする場合は、**A**と**B**スイッチを同時に押し、バンク番号の小さい数字へバンク・ダウンする場合は、**B**と**C**スイッチを同時に押します。



バンク・アップは、A + Bを押します バンク・ダウンは、B + Cを押します

POD HD400 バンクの選択: バンク・アップの場合は、▲を、バンク・ダウンの場合は▼を押します。



POD HD300やHD400では、バンクの選択は選択したバンクが「順番待ち」をする状態となり、**A、B、C、D**フットスイッチのいずれかを任意で踏まないかぎり、新しいプリセットは読み込まれません。

プリセットの保存

現在のトーンをプリセットとして保存する場合は、**SAVE**ボタンを押して、赤く点滅するのを確認すれば、以下の機能を使用することができます。



3-3

▲ 上/下で保存先となる、次/前の位置を選びます

ノブを回して選択したテキスト文字をエディットします。押して次の文字グループを選びます。

◀ 左/右で14文字数の中で位置を1カ所選ぶと、選択した文字が点滅します。

SAVEボタンを押してプリセットの保存を確定します。

- LCD画面の最上段には、プリセットの現在位置とプリセットの保存先となるチャンネル位置が表示されます。上記の例では、現在の**06A**プリセットが **01B**の位置に保存されることとなります。
- プリセットを新しい位置に保存する場合は、▲ナビ・ディスク・ボタンを使用して、新しいチャンネル位置を選びます。また、保存先として選んだチャンネル位置がLED画面の中で点滅表示されます。
- 現在の位置の中でプリセットを上書きしたい場合は、チャンネル位置を変えずにそのまま保ちます。
- ◀ナビ・ディスク・ボタンを使用して、LCD画面下段に表示されるプリセット名の各文字を選択します。**PRESETS**ノブを回して選んだ文字を変更し、自分だけのプリセット名を入力します。
- 点滅している**SAVE**ボタンを再び押して保存を確定します。また、気が変わって保存したくなければ、SAVEボタンの代わりに、**TAP**スイッチを押して保存操作をキャンセルします。

無償提供されるLine 6 POD HD300/HD400 Editソフトウェアもチェックしてください。Windows®やMac®のコンピュータ上で、プリセットを数に制限無く作成、カスタマイズ、管理することができます! [2・7ページの「POD HD Edit ソフトウェア」](#)をご覧ください。

エディット・モード

この章では、POD® HD300とPOD® HD400のエディット・モードについて説明します。プリセットの中に保存されるエディット可能な全てのトーン・パラメーターへアクセスするのは、このモードからです。またいくつかの「グローバル」設定とシステム機能もこの章で説明します。

エディット・モードにアクセスする

エディット・モードに入るときは、**PRESETS**ノブを押し、次にナビ・ディスクとPRESETSノブを使用してパラメーターを呼び出して調節します：

◀▶ 左/右を使用して、エディット可能なパラメーターのメニューの中を移動します。

▲▼ 上/下を使用して、現在のメニュー内の次/前のパラメーターを選びます。



エディット・モードへ入る、または終了させるときは、PRESETSノブを押します。

ノブを回して、選択したパラメーター用にセッティングを変更します。

401

ヒント：最後にアクセスしたエフェクト・モデル・タイプのために、直接エディット・モードへアクセスすることも可能です。例えば、**REVERB**ノブを回して調整した後、直ぐに**PRESETS**ノブを押せば、そのReverbエディット・モード・メニューを呼び出すことができます。

ファイン/コース・チューニング

PRESETSノブを回して、パラメーターの数値を調整する場合(%、ms、dB等の値)、その値は、基本的に1桁の整数で量を増加させて調節します(1%、2%、3%等)。しかし、PRESETSノブを回しながら**押す**ことで、ひとつ飛びに値を増加させる「大まかな」調整で素早くエディットすることができます！

エディット・モードの中で見つけることのできる、各メニューについての情報を以下に記載します。個々のパラメータについての追加説明が記載されている場合は、このガイドの他の章を参照するように指示されます。

SETUP メニュー

このメニューの中のパラメーターでPOD HDハードウェアの構成を行います。[1・1ページの「セットアップに関する詳細」](#)をご覧ください。



エディット・モード - SETUP メニュー

4・2

AMP メニュー

AMPメニューには、アンプ/プリアンプ・モデルへ影響を与えるいくつかのパラメーターが用意されており、また現在のアンプ用に別のスピーカー・キャビネットやマイク・モデルの選択もここでを行います。[5・2ページの「AMP エディット・モード」](#)をご覧ください。



エディット・モード - AMP メニュー

FX1、FX2 & FX3メニュー

これら3つのFXメニューにより、FXカテゴリー内の各モデル用のエディット可能なパラメーター全てにアクセスすることができます。**Model - Select**オプションを使用して、気に入ったモデルを選べば、その個々のパラメーターにアクセスすることが可能です。[6・1ページの「エフェクト・モデル」](#)をご覧ください。



エディット・モード - FX1、FX2 & FX3

REVERBメニュー

REVメニューから、各Reverb用のエディット可能なパラメーター全てにアクセスすることができます。**Model - Select**オプションを使用して、気に入ったモデルを選べば、その個々のパラメーターにアクセスすることが可能です。[6・16ページの「Reverbモデル-リファレンス表」](#)をご覧ください。



エディット・モード - Reverb メニュー

Gateメニュー

GATEメニューから、ノイズ・リダクションとノイズ・ゲート用のエディット可能なパラメーター全てにアクセスすることができます。入力信号からの余計なノイズとハム音を減らしたい場合、これらの機能はどのプリセットに対しても、合わせて、あるいは別々に使用することができます。ここで行う全ての設定はプリセット毎に保存されます。

4・3

Mode



- **Off** - ノイズ・リダクションとノイズ・ゲートの両方を無効にします。
- **Gate** - ノイズ・ゲートのみ利用可能にします。
- **NR** - ノイズ・リダクションのみ利用可能にします。
- **Gate+NR** - ノイズ・リダクションとノイズ・ゲートの両方を利用可能にします。

Thresh



ゲート・スレッシュホールドを設定します。設定値を低くすると、より低いレベルでゲートをアクティブにし、高い設定値では、より高い音量レベルでゲートをアクティブにします。

Decay

◀▶ GATE
 ⇅ Decay ● 28%

ゲート・ディケイを設定します。高い値に設定した場合は、ゲートが閉まるまでの時間が長くなります。

WAH メニュー

4・4

Wah Wahメニューには選び抜かれた Wahモデルが用意されています。この設定は、ワウの有効/無効状態とペダルのアサインと同様に、プリセット毎に個々に保存されます。* 詳細に関しては、[2・4ページの「ペダル・コントロール」](#)と [6・18ページの「Wahモデル」](#)をご覧ください。

◀▶ WAH: Chrome
 ⇅ Model ● Select

注意: POD HDの**WAH**や**VOL**ペダル機能のどちらでも、プリセット毎に **FX1 Pitch Glide** エフェクトをコントロールするように割り当て、ピッチベンディングを楽しむことができます。[6・8ページの「Pitch Glide」](#)をご覧ください。

VOL メニュー

VOLメニューには、POD HDペダルでボリューム・エフェクトをコントロールする場合、どのように機能させるかを設定する、いくつかのオプションがあります。これらのパラメーターは、ペダルのアサインと同様に、全てがプリセット毎に個々に保存されます。ボリューム・エフェクトの有効/無効化はPOD HDペダルの状態を通じて切り替えることができます(ペダル横の**WAH**と**VOLLED**が示します)。

ルーティング

ボリューム・ペダルを、アンプ・モデルやいくつかのエフェクト・タイプの前や後に置くと、多少異なった性質の音に聞こえることがあります。気に入ったトーンが見つかるまで自由に実験してみてください!

◀▶ VOL
 ⇅ Routng ● Pre

- **Pre** - シグナル・フロー内でボリューム・エフェクトをアンプ・モデルの前に(また、他の全ての「Pre」を選択したエフェクトの前に)置きます。
- **Post** - シグナル・フロー内でボリューム・エフェクトをアンプ・モデルの後に(また、他の全ての「Post」を選択したエフェクトの前に)置きます。

Min と Max

これらの2種類のパラメーターで、それぞれボリューム・ペダルの「ヒール」と「トゥ」位置用のボリューム・レベルを構成することができます。通常以外の動作にしたい場合は、好み通りにこれらを調整します。例えば、ボリューム・ペダルの動作を「逆」にしたければ、**Min**を**100%**に、**Max**を**0%**に設定します!



FX Loop メニュー (POD HD400 のみ)

POD HD400の背面に位置する**FX SEND**と**FX RETURN**端子に、好みの外部ペダルやラック・エフェクトを接続することも可能です。



FX SEND & FX RETURN 端子

外部エフェクトをモノで接続する場合は、**L/MONO**端子のみを、あるいはエフェクトがステレオやモノ・ステレオ構成の場合は、接続をペアにして使用します。**FX LOOP LEVEL**スイッチは、外部エフェクト用にレベルを最適化するために使用します。**LINE**はラック・エフェクト用に、**STOMP**はペダル用に使用します。

FX Loopにデバイスを接続しておけば、エディット・モードのFX Loopオプションで、現在のトーンで特定の動作を設定することができます。これらの設定はプリセット毎に保存されます。

ルーティング

FX SEND/RETURN端子の位置を選びます。

◀▶ FX LOOP
 ▲▼ Routng ● Post

- **Pre** - エフェクト・ループをアンプ・モデルの前に置きます (FX1とFX2もまた「Pre」に設定されている場合は、この2つの間に置きます)。
- **Post** - エフェクト・ループをアンプ・モデルの後に置きます (FX1とFX2もまた「Post」に設定されている場合は、この2つの間に置きます)。

4•6

SEND&リターン・レベル

これらのオプションを使用して、外部エフェクトに送るSendレベルと、外部エフェクトから送られてPOD HD400の信号経路へ戻るReturnレベルを減らします。(また前のページに記載した、FX LOOP LEVELスイッチも使用してください。)MIXパラメーターを使用して、トーンに加えたエフェクト・ループ信号の量のバランスを設定します(次のセクションをご覧ください)。

◀▶ FX LOOP
 ▲▼ SndLv1 ● 100%

◀▶ FX LOOP
 ▲▼ RtnLv1 ● 100%

Mix

POD HD400トーンに加えたエフェクト・ループ信号の量を設定します。100%では、エフェクト・ループのみが聞こえます。

◀▶ FX LOOP
 ▲▼ Mix ● 100%

注意: ファクトリー・プリセットは Mixを100%に設定して作られているため、**FX LOOP**フットスイッチを**FX SEND**と**FX RETURN**端子に接続していなければ、フットスイッチを操作しても聞こえるのは静寂のみです。

MIDI DUMP

USB経由で MIDI Dump を実行する場合は、この設定でPOD HDの MIDI Outポートへ送信する特定の MIDI SysExデータを選択します。この MIDIメニューの表示中に**TAP** ボタンを操作するとMIDI Dumpが開始します。[B・1ページの\[付録B:MIDI\]](#)も併せてご覧ください。



- **Current** - 現在選択されているプリセット用にデータを送ります。
- **All** - 全ての128プリセットに全データを送ります。

アンプ、キャビネット& マイクモデル

この章では代表的なHDアンプ & プリアンプ・モデルの選択とエディットに関する詳細を説明します。これらは全てPOD® HDデバイスの驚くべきサウンド・エンジニア・チームによって新たに開発されたモデルです!さらに、スピーカー・キャビネット、マイクモデル、使用するアンプ・モデルに関する詳細も併せて記載します。

パラメーターの詳細

本機の2列目のノブを使用すれば、アンプ・モデルの選択やアンプ・トーン・パラメーターへのアクセスを簡単に行うことができます:



アンプ・モデル・セレクト・ノブと5個のアンプ・トーン・ノブ

アンプ・モデル・セレクト・ノブに記されている各カテゴリー(CLEAN、PAWNSHOP、BLUES等)には、赤または緑のLEDで識別されている2種類のアンプ・モデルが含まれています。* アンプ・セレクト・ノブで調整を行うと、LCD 画面に選択したアンプ・モデルを数秒間を表示した後、そのアンプ・トーン・ノブの設定が瞬時に表示されます(右端のREVERBノブも同様)。

ヒント:アンプ・モデル・セレクト・ノブを使って選択する操作に加え、AMPエディット・モードからアクセスすることで利用可能なアンプ・モデルがさらに数種類用意されています![5.3ページ](#)をご覧ください。



現在選択されているアンプ・モデル、



及びそのアンプのノブで設定した値が表示されます。

5個のアンプ・トーン・ノブのいずれかを調整中にも、アンプ・ノブの値を示す画面が瞬時表示されます。

POD HDのモデルとなったクラシック・アンプの中には、通常の「TREBLE」、「BASS」、「MID」等以外のノブを含むアンプもいくつかあります。こういったケースに備え、これらのコントロール・タイプをPOD HD アンプ・トーン・ノブにマップすることでオリジナル・アンプの良さを保持しています。[5・10ページの「アンプ・コントロール・ノブ」](#)をご覧ください。

デフォルトのアンプ・セッティングについて

別のアンプやプリアンプ・モデルに変更すると、あらかじめ決められたキャビネット & マイク・モデル、アンプ・トーンを補完するようデザインされたアンプ・トーン・ノブとアンプ・エディット・モードのパラメーター・セッティングが自動的にロードされます。しかし、これら全てのアンプ・オプションの代わりに自分の好みの設定を個々に行い、プリセットとして完成したトーンをカスタマイズして保存することも可能です(次のセクションをご覧ください)!

5・2

AMP エディット・モード

AMPエディット・モード・メニューにはアンプ・オプションをカスタマイズするためのオプションがいくつか用意されています。**PRESETS**ノブを押して エディット・モードへ入ります:

◀▶ 左/右を使用してAMPメニューへ進みます。

▲▼ 上/下を使用して次/前のAMPパラメーターを選びます。



エディット・モードへ入る、または終了させるときは、PRESETSノブを押します。

ノブを回して、選択したパラメーター用にセッティングを変更します。

アンプ・モデルの選択

アンプ・モデル・セレクト・ノブを使用して選択する操作に加え、[5・1ページ](#)に記載されているように、AMPエディット・モード画面のModelメニューから全てのアンプ・モデルにアクセスすることもできます。アンプ・モデル・セレクト・ノブでの操作からは見つけることができない数種類のアンプ・モデルが、ここに追加されていることに注意してください! 全てのアンプ・モデルの一覧は、[5・8ページ](#)の表をご覧ください。



AMP Modelモード

クラシックなアンプのプリアンプ + パワー・アンプ段階の完全な音の特性を提供するために、このオプションは全てのアンプ・モデル用のデフォルト設定として、「Full」に設定されています。しかし、代わりに「Preamp」を選択してアンプのプリアンプ段のトーンだけを得ることもできます。



UNBALANCED OUTPUT端子からギターアンプへ接続するときや、**L6 LINK™**を使用してLine 6 DT50™またはDT25™アンプと接続するとき等、外部チューブアンプへアウトプットを送る場合は、Preampオプションを選ぶことをお勧めします。もちろん、間違った選択など存在しません! PODが常にこだわるのが柔軟性です… 可能性は全て試して、あなたのサウンドに最も合うモデルを選んでください!

5-3

FullかPreampオプションのどちらを選択するかによって、キャビネットとマイクモデルの追加アプリケーションは、デバイスのOUTPUT MODEスイッチ設定と使用している出力端子によって変わります。[2-6ページの「OUTPUT MODE オプション」](#)をご覧ください。

キャビネット・モデルの選択

新しいアンプ・モデルを選ぶと、アンプは適したスピーカー・キャビネット・モデルのデフォルトを自動的に読み込みます(5-10ページの「[キャビネット・モデル](#)」参照)。それでも、**CabMdl**オプションを使用すれば、どのアンプ・モデルに対しても、16種類の利用可能なキャビネットの中から気に入ったモデルを選ぶことができます。選択したキャビネット・モデルは、個々に保存されたプリセットと共に保持されます:



マイク・モデルの選択

新しいアンプ・モデルを選ぶと、モデルと共にデフォルトのマイクモデルが自動的に読み込まれます。それでも、**MicMdl**オプションを使用すれば、どのアンプ・モデルに対しても、別のマイクを選ぶことができます。選択したマイクモデルは、個々に保存されたプリセットと共に保持されます：

◀ AMP:BF Db1 Vib
 ▶ MicMdl 57 On Xs

下記は全てのマイクのモデル一覧表です。全てのギターアンプのキャビネットには8つから選択できるマイクが用意されており、1x15のフリップ・トップ・ベース・キャビネットには独自に8つのマイク・モデルが用意されています。

マイク・モデル	
マイク名	以下の製品がベース*
ギター・キャビネット・マイク・モデル	
57 On Xs	Shure® SM57 オン・アクシス
57 Off Xs	Shure® SM57 オフ・アクシス
409 Dyn	Sennheiser® MD 409 ダイナミック
421 Dyn	Sennheiser® MD 421 ダイナミック
4038 Rbn	Coles 4038 リボン
121 Rbn	Royer® 121 リボン
67 Cond	Neumann® U67 コンデンサー
87 Cond	Neumann® U87 コンデンサー
ベース・キャビネット・マイク・モデル	
57 On Xs	Shure® SM57 オン・アクシス
421 Dyn	Sennheiser® MD 421 ダイナミック
12 Dyn	AKG® D12
112 Dyn	AKG® D112
20 Dyn	EV® RE20
7 Dyn	Shure® SM7B
40 Dyn	Heil® PR40
47 Cond	Neumann® U47

* 本書で使用されている全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これら他社の商標は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった他社製品の音色とサウンドを識別するためにのみ使用しています。Shure®は、Shure Incorporated の登録商標です。Sennheiser®は、Sennheiser Electronic Corporation の登録商標です。Neumann®は、Georg Neumann GMBH の登録商標です。Royer®は、Bulldog Audio, Inc. DBA Royer Labs の登録商標です。

E.R. (アーリー・レフレクション)

◀▶ AMP:L6Elektrik
 ⚡E.R. 10%

このオプションは、アンプ・トーンと混ぜ合わせる「ルーム・トーン」の反射特性を加えます。この値はプリセット毎に保存されます。

Presence

◀▶ AMP:L6Elektrik
 ⚡Presenc 48%

ほぼ全てのチューブ・アンプのフロントパネルに設置されているPRESENCEノブと同様に、これで設定値を高く上げてトーンを鮮明にします。

5・5

Master

注: このマスター・ボリューム同様、下記のBiasおよびBias Excursionのパラメーターはアンプ・モデルの完全版([ページ5・3](#)をご覧ください)をご使用の場合のみ機能します。SagおよびHumのパラメーターは完全版および「プリアンプ」アンプ・モデルの両バージョンで機能します。これらの5つのコントロールを、アンプ・モデルの「ディープ・エディット・パラメーター」(またはDEP)と呼びます

◀▶ AMP:L6Elektrik
 ⚡Master 100%

この Masterパラメーターでパワーアンプのディストーション量を調整します。このパラメーターは相互作用が高く、他全てのアンプ・モデル・ディープ・エディット・パラメーターに影響を与えます。Masterの設定値が低ければ低いほど、他のコントロールへ及ぼす影響は少なくなります。

Sag

◀▶ AMP:L6Elektrik
 ⚡Sag 50%

Sagを最小値に設定すると、よりコンパクトなレスポンスを得ることができ、反対に設定値を高くすることでさらにダイナミクスとサステインを効かせることができます。

Hum

◀▶ AMP:L6Elektrik
↕Hum 25%

どれくらいのヒーターハムとACリップルをトーンと相互に作用させるかをコントロールします。最高値に設定すれば強烈にワイルドなサウンドが得られます。

Bias

◀▶ AMP:L6Elektrik
↕Bias 50%

5•6

パワーチューブのバイアスを変更します。最小値に設定すると「冷めた」Class ABバイアスが得られます。最大値の場合、アンプは Class Aで動作します。

Bias X

◀▶ AMP:L6Elektrik
↕Bias X 50%

ノブ 2: 設定値を高くした際にパワーアンプ・チューブのボイスがどのように反応するかは、Bias Excursionで決まります。よりコンパクトなサウンドでレスポンスを得たいときは、設定値を低めにします。チューブ・コンプレッションをより効かせたいときは、設定値を高くします。このパラメーターは、**DRIVE & MASTER**セッティングに対して強く反応します。

BypVol

◀▶ AMP:L6Elektrik
↕BypVol 100%

これはアンプモデルを無効にした際に聞こえるレベルのみを対象としたボリューム・コントロールです(**FX ONLY**機能はアクティブの状態です。[5•7ページ](#)をご覧ください。)。エフェクト・モデルのみを対象として、デバイスの出力レベルを調整するときに便利です。この値はプリセット毎に保存されます。

Manualモード

既に説明したように、新しくアンプ・モデルを選ぶと、アンプ・トーン・ノブ、REVERBノブとAMPエディット・モード・パラメーターの各デフォルト設定と共に、新しいアンプがロードされます。新しいアンプ・モデルを選んだ際に、これらのノブの値を変更したくない場合は、Manualモードを使用します：

Manualモードへ入る、または終了させるときの切り替えは、FX ONLYボタンを長押しします。



Manualモードでは、以下の動作が適用されます：

- LED Bank/Patchの表示が「- - -」を示し、Manualモードに入ったことを表します。
- 実際の5アンプ・トーン・ノブ & REVERBノブの位置は常に使用中の値を反映するため、見ている通りのノブの現在位置の値で機能します。
- 新しいアンプ・モデルを選択しても、これらの6ノブに充てられているアンプの「デフォルト」設定はロードされません。その代わりに、全ての6ノブの設定はノブを回さない限りそのままの状態が保持されます。
- 同様に、Amp エディット・モード(前のセクション参照)内の全ての「ディープ・エディット・アンプ」パラメーター値は、アンプ・モデルを変更したときの設定がそのまま保持されます。
- いずれかのプリセットを選択すると、自動的に Manualモードを抜け、最後に保存したアンプ・モデルとパラメーター設定を含めたかたちで新しいプリセットが読み込まれます。

FX Onlyモード

POD HDをギターアンプに入れて操作する際に、ユニットのエフェクトのみを使用するとき等、アンプを変えずに、キャビネット & マイクモデルの処理をバイパスさせた状態に保持したい場合は、FX Onlyモードを使用します。FX Onlyモードでは、以下の動作が適用されます：

- FX OnlyモードのOn/Offを切り替えるときは、**FX ONLY**ボタンを使用します。このモードがアクティブになると、このボタンが点灯します。
- FX Onlyモードは持続する「グローバル」設定のため、このモードがアクティブの場合、プリセット内に保存されたそのアンプ・モデルが有効/無効に関わらず、アンプ、キャビネット&マイク処理はそのままバイパスされます。
- FX Onlyモードはアンプをバイパスさせるため、アンプのトーン・ノブとAMPエディット・モードのパラメーターもまた使用不可能になります。従って、アンプがオフの場合は、「ByVol」パラメーターが信号レベルを調整するために用意されています。[5・6ページの「ByVol」](#)をご覧ください。*
- リバース・エフェクトはFX Onlyモードでも利用可能であり、**REVERB**ノブを使用したり、エディット・モードを通じてREVERBメニューからでも調整することができます。

アンプ&キャビネットの処理は、**AMP**フットスイッチ経由でバイパスさせることが可能ですが、フットスイッチは現在のプリセット用のアンプをバイパスさせるだけという点に注意してください。

AutoFX パラメーター

このオプションはグローバル設定であり、SETUPメニューからアクセスします。[1・2ページの「AutoFX」](#)をご覧ください。アンプ・セレクト・ノブで新たにアンプ・モデルを選択した場合、この設定はエフェクトの動作に影響を与えることがあります。

アンプ/プリアンプ・モデル

HDアンプ/プリアンプ・モデルのベースとなったクラシックなアンプを、以下の表に記載します。* 詳細は、<http://line6.com/support/manuals/>から入手可能な、POD HDモデル・ギャラリーをご覧ください。

POD HD アンプ/プリアンプ・モデル	
アンプ/プリアンプ・モデル	以下の製品がベース*
Blackface Double Normal	'65 「Blackface」 Fender® Twin Reverb®, ノーマル・インプット・チャンネル
Hiway 100	Hiwatt® Custom 100
Super O	'60s Supro® S6616
Gibtone 185	Gibson® EH-185
Tweed B-Man Normal	'59 Fender® Tweed Bassman®, ノーマル・インプット・チャンネル

* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためにのみ使用しています。Fender®, Twin Reverb®, Bassman®および Deluxe Reverb®は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。Vox®は、Vox R&D Limitedの登録商標です。Marshall®は、Marshall Amplification Plcの登録商標です。Dr. Z®は、Dr. Z Amps, Inc.の登録商標です。Mesa/Boogie®および Dual Rectifier®は、Mesa/Boogie, Ltd.の登録商標です。Engl®は、Beate Ausflugおよび Edmund Englの登録商標です。Hiwatt®は、Fernandes Company, Ltd.の登録商標です。Fane®は、Fane Internationalの登録商標です。Gibson®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Supro®は、Zinky Electronicsの登録商標です。

POD HD アンプ/プリアンプ・モデル	
アンプ/プリアンプ・モデル	以下の製品がベース*
Blackface 'Lux Normal	Fender® 「Blackface」 Deluxe Reverb®, ノーマル・インプット・チャンネル
Divide 9/15	Divided By 13 9/15
PhD Motorway	Dr. Z® Route 66
Class A-15	'61 「Fawn」 Vox® AC-15
Class A-30 TB	Vox® AC-30 "Top Boost"
Brit J-45 Bright	'65 Marshall® JTM-45 MkII, ブライト・インプット・チャンネル
Brit P-75 Bright	Park 75, ブライト・インプット・チャンネル
Brit J-800	Marshall® JCM-800
Bomber Uber	2002 Bogner Uberschall
Treadplate	Mesa/Boogie® Dual Rectifier®
Angel F-Ball	Engl® Fireball 100
注意: 以下のアンプ・モデルは AMP エディット・モード - Modelメニューからのみアクセス可能です。	
Blackface Double Vibrato	'65 「Blackface」 Fender® Twin Reverb®, ビブラート・インプット・チャンネル
Tweed B-Man Bright	'59 Fender® Tweed Bassman®, ブライト・インプット・チャンネル
Blackface 'Lux Vibrato	Fender® 「Blackface」 Deluxe Reverb®, ビブラート・インプット・チャンネル
Brit J-45 Normal	'65 Marshall® JTM-45 MkII, ノーマル・インプット・チャンネル
Brit P-75 Normal	Park 75, ノーマル・インプット・チャンネル
Line 6 Elektrik	Line 6オリジナル
Plexi Lead Normal	'59 Marshall® 「Plexi」スーパーリード100, ノーマル・インプット・チャンネル
Plexi Lead Bright	'59 Marshall® 「Plexi」スーパーリード100, ブライト・インプット・チャンネル
Solo Clean	'93 Soldano SLO 100, ノーマル・チャンネル, 「クリーン」モード
SoloCrunch	'93 Soldano SLO 100, ノーマル・チャンネル, 「クランチ」モード
Solo OD	'93 Soldano SLO 100, オーバードライブ・チャンネル
Line 6 Doom	最高の歪みを得るために調整されたJCM800プリアンプに、Hiwattのパワーアンプを合体
Line 6 Epic	どのようなレベルでも壮大な歪みとサステインを繰り返す、Line 6の傑作
Flip Top	Ampeg® B-15NF Portaflex® ベース・ギター・アンプ

* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためにのみ使用しています。Fender®, Twin Reverb®, Bassman®および Deluxe Reverb®は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。Vox®は、Vox R&D Limitedの登録商標です。Marshall®は、Marshall Amplification Plcの登録商標です。Dr. Z®は、Dr. Z Amps, Inc.の登録商標です。Mesa/Boogie®および Dual Rectifier®は、Mesa/Boogie, Ltd.の登録商標です。Engl®は、Beate Ausflugおよび Edmund Englの登録商標です。Hiwatt®は、Fernandes Company, Ltd.の登録商標です。Fane®は、Fane Internationalの登録商標です。Gibson®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Supro®は、Zinky Electronicsの登録商標です。

アンプ・コントロール・ノブ

モデリングしたクラシックなアンプに特別なノブ・コントロールが搭載されている場合は、その動作をエミュレートしました。以下がその内容です。

- **Super O (PAWNSHOP 赤)**-実際のSupro®には1種類のDRIVEと1個のTONEノブしかないため、「TONE」をMIDノブへマップし、BassとTrebleコントロールを作り出しました。
- **Divide 9/15 (BOUTIQUE 赤)** - Divided By 13 9/15のEL84回路をモデルにしています。DRIVEノブで「クリーン」チャンネルのコントロールを行い、BASSノブは「ダーティ」チャンネルのDRIVEノブとして使用します。BASSノブは、「DRIVE 2」コントロールだと思ってください。
- **Class A-15 & Class A-30TB (CLASS A 赤 & 緑)** - Vox®のデザインに従って、これら2種類のアンプモデルのMIDノブに「CUT」をマップしました。ノブを反時計回りに回すとトレブルが減少します。

5・10

キャビネット・モデル

キャビネット・モデルのベースとなったスピーカー・キャビネットを以下の表に記載します。キャビネット一覧表の最後にある「None」を選ぶと、アンプで作った音色にスピーカーまたはマイクのモデリングを加えないことも可能です。

POD HD キャビネット・モデル	
キャビネット・モデル	以下の製品がベース*
212 Blackface Double	Fender® 「Blackface」 Twin Reverb® コンボ・キャビネット、2x12インチ Jensen® スピーカー
412 Hiway	Hiwatt® キャビネット、4x12インチ Fane® 12287 50W スピーカー
6x9 Super O	Supro® S6616 コンボ・キャビネット、「6x9インチ・スピーカー1台
112 Field Coil	Gibson® EH-185 コンボ・キャビネット、1x12インチ Field Coil スピーカー
410 Tweed	'59 Fender® Tweed Bassman® コンボ・キャビネット、4x10インチ Jensen® アルニコ・スピーカー
112 BF 'Lux	Fender® 「Blackface」 Deluxe Reverb® コンボ・キャビネット、12インチ Oxford 12K5-6 スピーカー
112 Celest 12-H	Divided By 13 9/15 コンボ・キャビネット、12インチ Celestion® G12H Heritage (70th Anniversary)スピーカー1台
212 PhD Ported	Dr. Z®, Z Best キャビネット、2x12インチ Celestion® スピーカー(G12H Heritage 1台と Vintage 301台)
112 Blue Bell	'61 「Fawn」 Vox® AC-15 コンボ・キャビネット、12インチ Celestion® Alnico Blue スピーカー1台
212 Silver Bell	Vox® AC-30 「Top Boost」、2x12インチ Celestion® Alnico Silver Bell スピーカー
412 Greenback 25	Marshall® キャビネット、4x12インチ Celestion® G12M 「Greenback」 スピーカー
412 Blackback 30	Marshall® キャビネット、4x12インチ Celestion® Rola G12H 30W 「Blackback」スピーカー
412 Brit T-75	Marshall® キャビネット、4x12インチ Celestion® G12T75 スピーカー
412 Uber	Bogner Uberschall キャビネット、4x12インチ Celestion® スピーカー(2 x G12T75と2 x Vintage 30スピーカー)
412 Tread V-30	Mesa/Boogie® キャビネット、4x12インチ Celestion® Vintage 30 スピーカー
412 XXL V-30	Engl® Pro キャビネット、4x12インチ Celestion® Vintage 30 スピーカー
115 Flip Top	Ampeg® Custom Design, CTS 15インチ・スピーカー(ベース・キャビネット)
None	スピーカー・キャビネット(またはマイク)モデリングを使用しない際に選択

* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためにのみ使用しています。Fender®, Twin Reverb®, Bassman®および Deluxe Reverb®は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。Vox®は、Vox R&D Limitedの登録商標です。Marshall®は、Marshall Amplification Plcの登録商標です。Dr. Z®は、Dr. Z Amps, Inc.の登録商標です。Mesa/Boogie®および Dual Rectifier®は、Mesa/Boogie, Ltd.の登録商標です。Engl®は、Beate Ausflugおよび Edmund Englの登録商標です。Hiwatt®は、Fernandes Company, Ltd.の登録商標です。Fane®は、Fane Internationalの登録商標です。Gibson®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Zinky®は、Zinky Electronicsの登録商標です。Celestion®は、Celestion International Ltd.の登録商標です。Jensen®は、Jensen Loudspeakersおよび Audiovox Corporationの登録商標です。

エフェクト・モデル

この章ではPOD® HD FX モデル全てに関するリファレンス表&パラメーターの詳細を用意しました。その大部分が人気の高いLine 6 M13 ストンプボックス・モデラーに由来するものです!全てのエフェクト・パラメーターはエディット・モードからアクセス可能です。[4・1ページの「エディット・モード」](#)をご覧ください。

ヒント:POD HD FXモデルについての詳細は、<http://line6.com/support/manuals/>から入手可能な、POD HDモデル・ギャラリーとM13 アドバンスド・ガイドの文書と併せてご覧ください。

FX1モデル - リファレンス表

大量の「ストンプ」エフェクト (ディストーション、ファズ、コンプレッサー、ピッチシフター他多数)を含めた**FX1**モデルの全パラメーターを記載したリファレンス表は以下の通りです。

FX1 モデル	パラメーター				
GAIN スウッシュ					
Screamer	Drive	Bass	Tone	Treble	Output
Tube Drive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Classic Distortion	Drive	Bass	Filter	Treble	Output
Heavy Distortion	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Color Drive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Overdrive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Line 6 Drive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Line 6 Distortion	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Boost Comp	Drive	Bass	Comp	Treble	Output
Red Comp	-	-	-	Sustain	Level
Blue Comp	-	-	-	Sustain	Level
Blue Comp Treb *	-	-	-	Sustain	Level
Vetta Comp	-	-	-	Sensitivity	Level
Vetta Juice *	-	-	-	Amount	Level
Fuzz Pi	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Octave Fuzz	Drive	Bass	Mid	Treble	Output

* POD HD400のみ利用可能

FX1 モデル	パラメーター				
Jet Fuzz	Drive	Fdbk	Tone	Speed	Output
Sub Octave Fuzz	Drive	Bass	Sub	Treble	Output
Buzz Saw *	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Facial Fuzz	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Jumbo Fuzz	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
VARIOUS スウツシュ					
Spring	-	Decay	Time	Tone	Mix
'63 Spring *	-	Decay	Time	Tone	Mix
Particle Verb *	-	Dwell	Gain	Verb	Mix
Graphic EQ *	80Hz	220Hz	440Hz	1.1kHz	2.2kHz
Studio EQ *	LowFreq	LowAmt	MidFreq	MidAmt	Output
Parametric EQ	Lows	Highs	Freq	Q (Width)	Gain
4-Band Shift EQ	Low	Low Mid	Hi Mid	High	Shift
Mid Focus EQ *	HPFreq	HP Q	LPFreq	LP Q	Gain
Slow Filter *	Speed	Freq	Q	Filter	Mix
Tron Down	Freq	Q (Width)	Range	Type	Mix
Tron Up	Freq	Q (Width)	Range	Type	Mix
Q Filter	Freq	Q (Width)	Gain	Filter	Mix
Ring Modulator	Speed	Depth	Shape	AM FM	Mix
Dimension	Switch 1	Switch 2	Switch 3	Switch 4	Mix
Frequency Shifter	-	-	Freq	Mode	Mix
Rotary Drum	Speed	Depth	Tone	Drive	Mix
Rtry Drm W/Hrn *	Speed	Depth	HDepth	Drive	Mix
PITCH スウツシュ					
Smart Harmony	-	Key	Scale	Shift	Mix
Pitch Glide	Position	Pedal	Heel	Toe	Mix

* POD HD400のみ利用可能

FX1 モデル	パラメーター				
Attack Synth *	Speed	Freq	Wave	Pitch	Mix
Synth String	Speed	Freq	Attack	Pitch	Mix
Growler	Speed	Freq	Q (Width)	Pitch	Mix
Synth-O-Matic	Freq	Q (Width)	Wave	Pitch	Mix
Bass Octaver	-	Tone	Normal	Octave	-
V Tron	Start (Vowel)	End (Vowel)	Speed	Mode	Mix
Vintage Pre	Phase	Gain	Output	HP Filter	LP Filter
Hard Gate	Open Thresh	Close Thresh	Hold	Decay	-

* POD HD400のみ利用可能

共通FX1、FX2 & FX3 パラメーター

全てのエフェクトが以下の「Model Select」と「Routng」パラメーターを含みます。エディット・モードに入ると、各エフェクト・モデル用の他のパラメーターと同様に、これらのパラメーターを見ることができます：

Model Select



◀ FX1:Fuzz Pi
 ▶ Model ● Select

FX1、FX2やFX3モデルのリストから選ぶことができます。

Routing



◀ FX1:Fuzz Pi
 ▶ Routng ● Pre

シグナル・フロー内のPre か Post位置にエフェクト・モデルを設定します。

- **Pre:** エフェクトをアンプ・モデルの前に置きます。
- **Post:** エフェクトをアンプ・モデルの後に置きます。

新しいFX1モデル(フラッシュ v.2.0)

フラッシュ v.2.0より、ヴィンテージ・プリおよびハード・ゲートという2つの新しいFXが追加されました。これらのモデルを使用するには、エディット・モードでFX1を選び、モード選択をし、モデルリストの最後までスクロールしてください。

ヴィンテージ・プリ



◀▶ FX1:VintagePre
↕Model ● Select

このモデルはRequisite® Y7 ヴィンテージ・チューブ・マイク・プリアンプをベース*として作られており、ギターではない入力信号またはベースやギターアンプと一緒に使用することでチューブの暖かさを加えることができます。

- **ゲイン:** 入力ゲインを加えます。レベルを上げて行くとチューブ・ディストーションを加えることができます。
- **アウトプット:** 最終音量を決定します。大幅なブーストを加えることが可能です。
- **フェイズ:** ノーマルの0または逆位相の180から選択してください。
- **HPF:** 低音をカットするハイパスフィルター。どこからローをカットし始めるかをHz数値で選択してください。
- **LPF:** 高音をカットするローパスフィルター。どこからハイをカットし始めるかをkHz数値で選択してください。

ハード・ゲート



◀▶ FX1:HardGate
↕Model ● Select

非常に早いレスポンスに対応した前進的なゲートで、メタルなどを含むどのようなジャンルにも適しています。「バチバチ」や「ピシャツ」などのような不規則な音を作り出すことも可能です。

- **オープンおよびクローズのスレッシュホールド(閾値):** ゲートを開いて音を通すインプット信号のレベルをオープン・スレッシュホールドで調整します。一度ゲートが開くと、インプット信号のレベルがクローズ・スレッシュホールドの設定より低くなるまでゲートは閉まりません。
- **ホールド・タイム:** インプット信号のレベルがクローズ・スレッシュホールドの数値になった時からゲートが実際に閉まるまでの時間を設定します。
- **ディケイ・タイム:** スレッシュホールド値に達した時どのぐらいの速さでゲートが閉まるかを設定します。高い数値はより自然なディケイになり、短い数値は信号を急激に止めます。

FX1 GAIN スウッシュ・モデル - パラメーター

以下のパラメーターは大部分の Compressor、Distortion & Fuzzモデルに共通です:

- **Drive:** オーバードライブ/ディストーション/ファズの量を調整します。
- **Bass:** ベース EQ レベルを調整します。
- **Mid:** 中域 EQ レベルを調整します。
- **Treble:** トレブル EQ レベルを調整します。
- **Output:** 全体のボリュームレベルを調整し、設定値を高くするとアウトプットがブーストします。

FX1 VARIOUS スウッシュ・モデル - パラメーター

以下のパラメーターは大部分の REVERBモデルに共通です:

- **Decay:** リバース効果の持続時間を設定します。
- **Time:** リバース効果が聞こえる前の「プリ・ディレイ」時間を構成します。
- **Tone:** 「ウェット」リバース信号のトーンのみを調整します。

Particle Verb (POD HD400 のみ)

これは本当にユニークなリバーブ・エフェクトのため、そのパラメーターの詳細を用意しました。



STABLEモードにより、コードを濃密にモジュレーションされたパッドへ変えます。CRITICALモードも似ていますが、ピッチがわずかに上昇します。HAZARDモードでは、全ての音列が除去されます。

- **Dwell:** 基本的に、リバーブ・テイルの減衰までの時間を調節するディケイ・パラメーターです。
- **Condition:** 「STABLE」、「CRITICAL」、「HAZARD」から選びます。今までとは違うリバーブを体験してみましょう!
- **Gain:** エフェクトの出力レベル全体を設定します。

以下のパラメーターは大部分の EQ モデルに共通です:

- **Frequency (「Low」、「Mid」、「High」も同様):** 特定のEQバンドの中心周波数や、範囲を選びます。(Graphic EQ は、それぞれのゲインが調整可能な「固定」バンドを含みます。)
- **Q:** 周波数バンドフィルターの周波数幅や、シェイプを調節します。
- **Gain:** 特定のバンドの出力レベルを調節します。(GAINパラメーターは全体のレベルを調整します。)

以下のパラメーターは大部分の Filterモデルに共通です:

- **Frequency:** エフェクトで使用する中心周波数を選びます。
- **Q:** 使用中のフィルターの周波数幅を調節します。
- **Depth & Speed:** モジュレーションの強さ & レートを調整します (モジュレーションを含むフィルター・エフェクト用)。
- **Mix:** 「Dry」と「Wet」信号のバランスを設定します。0%では信号にワウ・エフェクトを全く加えませんが、100%ではワウがかかった信号だけが聞こえます。大部分のフィルター・エフェクトでは、完全に並外れた効果要素を得るために100%のセッティングも試してみてください。

FX1 PITCH スワッシュ・モデル - パラメーター

これらのエフェクトは他よりも多少複雑なため、各ピッチ・エフェクト・モデルのエディット・モード画面とパラメーターの詳細を用意しました。

Smart Harmony

◀ FX1 : SmrtHarmony
 ▶ Mode 1 ● Select

遂にLine 6の知的なハーモナイザー・エフェクトの登場です！ ScaleとKey、Shiftの値を設定すれば、DSPアルゴリズムからギターリフに合わせたパーフェクトなハーモニーが生まれます。設定可能なパラメーターは以下の通りです：

- **Key:** 演奏するキーを選びます。
- **Scale:** 使用したいスケールを選びます(以下の表を参照)。
- **Shift:** ハーモニーノートのためのインターバル値を決めます。
- **Mix:** バランスやドライ信号 + ハーモニーノートを設定します。

Smrt Hramnyエフェクトは、自動的にギターのシングル・ノート・ピッチを検知して、ユーザーが選択したキーとスケールに合うようにシフトします。キーの選択ができます。他の音階モードを使いたい場合は、以下の表を参考にしてください。

- キーは左側から、モードは上から選びます。
- 2カ所がつながる所の枠が、そのモードに選ぶキーです。例えば、Cのキー - リディアン・モードには、スケールは G Major です。

	モード						
キー	イオニアン	ドリアン	フリジアン	リディアン	ミクソリディアン	エオリアン	ロクリアン
A	A Maj	G Maj	F Maj	E Maj	D Maj	C Maj	Bb Maj
B	B Maj	A Maj	G Maj	Gb Maj	E Maj	D Maj	C Maj
C	C Maj	Bb Maj	Ab Maj	G Maj	F Maj	Eb Maj	Db Maj
D	D Maj	C Maj	Bb Maj	A Maj	G Maj	F Maj	Eb Maj
E	E Maj	D Maj	C Maj	B Maj	A Maj	G Maj	F Maj
F	F Maj	Eb Maj	Db Maj	C Maj	Bb Maj	Ab Maj	Gb Maj
G	G Maj	F Maj	Eb Maj	D Maj	C Maj	Bb Maj	Ab Maj

Pitch Glide



◀ FX1:PitchGlide
Model Select

これが Pitch Glide効果です。POD HDのエクスペッション・ペダルと使用するためにデザインされました。ヒールとトゥ値を好みに合わせて設定し、その間を滑らせます。

- **Position:** ペダル位置を手動で調整することで、実際にペダルをコントロールしなくてもそのエフェクトを微調整することが可能になります。
- **Pedal:** *
 - **Wah:Glide**を選択し、ペダルの WAHモードに Pitch Glide効果をコントロールさせます。
 - **Vol:Glide**を選択し、ペダルの VOLモードに Pitch Glide効果をコントロールさせます。
 - **Don'tCtl**を選択し、ペダルをコントロールせずにエフェクトを手動で使用します。
- **Heel:** ペダルの「ヒール」位置のときのピッチ・シフトの量を設定します。
- **Toe:** ペダルの「トゥ」位置のときのピッチ・シフトの量を設定します。
- **Mix:** 「ドライ」ギター信号と「ウェット」(ピッチがシフトした) 信号とのバランスを調整します。

注意:このペダルの割り当ては、プリセットを保存するときに保持されます。ペダルでPitch Glideをコントロールすると、ペダルの**WAH**と**VOLLED**の両方が点灯することに気付かれるはずです。[2.4ページの「ペダル・コントロール」](#)をご覧ください。

Attack Synth (POD HD400 のみ)

◀▶ FX1:AttackSynth
 ↕Model ●Select

- **Speed:** アタック・タイムをコントロールします。
- **Frequency:** VCFフィルターのストップ周波数をコントロールします。
- **Wave:** 波形のスクエア、パルス幅変調、ランプを選びます。
- **Pitch:** 2オクターブの域を超えるエフェクトのピッチを設定します。
- **Mix:** 「ドライ」ギター信号と「ウェット」信号とのバランスを調整します。

Synth String

◀▶ FX1:SynthStrng
 ↕Model ●Select

- **Speed:** ビブラートのようなパルス幅変調の速度を設定します。
- **Frequency:** ローパスフィルタートーンコントロールをコントロールします。
- **Attack:** アタック・タイムを構成します。
- **Pitch:** 2オクターブの域を超えるエフェクトのピッチを設定します。
- **Mix:** 「ドライ」ギター信号と「ウェット」信号とのバランスを調整します。

Growler

◀▶ FX1:Growler
 ↕Model ●Select

- **Speed:** ビブラートのようなパルス幅変調の速度を設定します。
- **Frequency:** フィルターの中心周波数をコントロールします。
- **Q:** フィルターの周波数幅を設定します。
- **Pitch:** 2オクターブの域を超えるシンセのピッチを設定します。
- **Mix:** 「ドライ」ギター信号と「ウェット」信号とのバランスを調整します。

Synth-O-Matic

◀▶ FX1: SynthOmatic
 ⚙️ Model Select

- **Frequency:** 中心に置かれるフィルター付近の周波数を選びます。
- **Q:** 選択した周波数をさらに強調するか、弱めるためのフィルター幅を設定します。
- **Wave:** 8種類のシンセ波形の中から1種類選びます。
- **Pitch:** シンセ・サウンドのピッチをコントロールします。
- **Mix:** 「ドライ」ギター信号と「ウェット」信号とのバランスを調整します。

Bass Octaver

◀▶ FX1: BassOctaver
 ⚙️ Model Select

- **Tone:** エフェクト信号の全体のトーンを調整します。
- **Normal:** オリジナルの信号レベルをコントロールします（オクターブ信号とのバランスをとることができます）。
- **Octave:** ピッチシフトされた、オクターブ信号のレベルをコントロールします。

V-Tron

◀▶ FX1: V-Tron
 ⚙️ Model Select

新たにノート、コードを弾くたびに、Vowelモード（機械的な人声のような効果）のシーケンスで「話し」ます。Start母音からEnd母音までのみ(Up)か、シーケンスを再び最初から(Up/Down)かのどちらかを選ぶことができます。

- **Startと End:** 開始の母音と終了の母音サウンドを設定します(A、E、I、O、U)。
- **Speed:** StartからEnd母音までを「話す」のに要する時間を調整します。
- **Mode:** UpかUp/Downを選びます。
- **Mix:** 「ドライ」ギター信号と「ウェット」信号とのバランスを調整します。

FX2モデル - リファレンス表

以下のリファレンス表には、多数のモジュール、フィルター&トレモロを含め、**FX2**のモデル用にセットされた全てのパラメーターが記載されています。

FX2 モデル	パラメーター				
MOD スワッチ					
Analog Chorus	Speed	Depth	Chrs/Vibrato	Tone	Mix
Analog Flanger	Speed	Depth	Feedback	Manual	Mix
U-Vibe	Speed	Depth	Feedback	Vol Sensing	Mix
Phaser	Speed	Depth	Feedback	Stages	Mix
Dual Phaser	Speed	Depth	Feedback	LFO Shape	Mix
Barberpole Phaser	Speed	-	Feedback	Mode	Mix
Panned Phaser	Speed	Depth	Output	Pan Speed	Mix
Script Phase	Speed	-	-	-	-
Pitch Vibrato	Speed	Depth	Rise Time	Vol Sensing	Mix
FILTER スワッチ					
Seeker	Freq	Q (Width)	Speed/Tempo	Steps	Mix
Throbber	Freq	Q (Width)	Speed/Tempo	Wave	Mix
Spin Cycle	Freq	Q (Width)	Speed/Tempo	Vol Sensing	Mix
Obi-Wah	Freq	Q (Width)	Speed/Tempo	Filter Type	Mix
Voice Box	Start Vowel	End Vowel	Speed/Tempo	Auto	Mix
TREMOLO スワッチ					
Opto - Tremolo	Speed	Depth	Shape	Vol Sensing	Mix
Bias Tremolo	Speed	Depth	Shape	Vol Sensing	Mix
Pattern Tremolo	Speed	Pattern 1	Pattern 2	Pattern 3	Pattern 4
Panner	Speed	Depth	Shape	Vol Sensing	Mix

共通 FX2 パラメーター

FX2モデルのいずれかを対象にエディット・モードに入ると、ほぼ全てのケースで以下の共通パラメーターが表示されます([6・3ページ](#)で記載されているように「Model Select」と「Routing」も同様です):

TapCtl



このオプションを**Control**に設定すると、FX2モデルのモジュレーション速度は、**TAP**ボタンでPOD HDの中に「タップ」した、いかなるテンポにも従います。このパラメーターを**Don't Ctl**に設定すると、現在のテンポに関わらず、FX2モデルのSpeedパラメーターを好みの速度に調整できます。TapCtl設定は「グローバル」パラメーターです。[2・4ページの「タップ・テンポ」](#)も併せてご覧ください。

Speed



FX2モデルのモジュレーション/オシレーション/トレモロ速度を調整します。* 以下の動作が当てはまります:

- **TapCtl**パラメーター(前の項目を参照)を**Don'tCtl**に設定すると、現在のシステム・テンポに関わらず、モジュレーション速度を手動で調整することができます。このSpeed値はプリセット毎に保存されます。
- **TapCtl**パラメーターを **Control**に設定した場合、モジュレーション速度は現在のタップ・テンポに従います。仮に四分音符のリズムにしたい場合、そのリズムで**TAP**フットスイッチを踏めば、タップ・テンポが新たに設定され、FX2モデルはこの新しいテンポに従います。

以下のモデルの詳細で記載されるように、FX2フィルター・スワッシュ・モデルには多少異なるSpeedパラメーター・オプションが適用されます。

Depth

◀▶ FX2:AnlgChorus
 ⇅Depth ●32%

ピッチ・モジュレーションの強さを、エフェクト・タイプに合わせて調整します。設定値を高くすると、よりドラマチックな結果を与えます。

Feedback

◀▶ FX2:AnlgFlange
 ⇅Fdbk ●32%

多くのモジュレーション・エフェクトにFeedbackパラメーターが用意されています。エフェクトに送り戻されるディレイの信号量をコントロールします。設定値を高くすると、よりドラマチックな雰囲気になります。

Mix

◀▶ FX2:AnlgChorus
 ⇅Mix ●25%

「ドライ」と「ウェット」信号のバランスを設定します。0%ではドライなギターサウンドだけ聞こえ、100%ではエフェクトがかかった信号だけが聞こえます。コーラス、フランジャー、フェーズ・エフェクトには、ミックスを 0から50%に設定するのがベストです。ヴィブラート、トレモロ、ロータリー・エフェクトには、Mixを90~100%で試してください。自由に実験してみましょう!

Script Phaseと Pattern Tremolo FX2モデルにはMixパラメーターがありません。これらのドライ/ウェット・バランスは、インスピレーションを与えたクラシックなペダルと同じように「固定」です!

共通 FILTER スラッシュ・パラメーター

上記に加え、いくつかのFX2 Filter スラッシュ・モデルには以下のパラメーターが用意されています:

- **Frequency:** 使用しているフィルターの中心周波数を選びます。
- **Q:** フィルターの周波数幅を設定します。

FX3モデル - リファレンス表

以下のリファレンス表には、我々の誇るディレイ&エコー・モデル・コレクションを含め、**FX3**のモデル用にセットされた全てのパラメーターが記載されています。

FX3 モデル	パラメーター				
DELAY スラッシュ					
Digital Delay	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Digital Delay w/ Mod	Time	Fdbk	Mod Speed	Mod Depth	Mix
Analog Echo	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Analog w/Mod	Time	Fdbk	Mod Speed	Mod Depth	Mix
Echo Platter	Time	Fdbk	Wow/Flutter	Drive	Mix
Echo Platter Studio	Time	Fdbk	Wow/Flutter	Drive	Mix
Low Res Delay	Time	Fdbk	Tone	Resolution	Mix
Stereo Delay	Left Time	Left Fdbk	Right Time	Right Fdbk	Mix
Ping Pong Delay	Time	Fdbk	Time Offset	Stereo Spread	Mix
Dynamic Delay	Time	Fdbk	Threshold	Ducking	Mix
TAPE ECHO スラッシュ					
Tape Echo	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Tape Echo Studio	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Tube Echo	Time	Fdbk	Wow/Flutter	Drive	Mix
Tube Echo Studio	Time	Fdbk	Wow/Flutter	Drive	Mix
Multi-Head Delay *	Time	Fdbk	Head 1 & 2	Head 3 & 4	Mix
SWEEP ECHO スラッシュ					
Auto Volume Echo	Time	Fdbk	Mod Depth	Swell Time	Mix
Sweep Echo	Time	Fdbk	Sweep Speed	Sweep Depth	Mix
Sweep Echo Studio	Time	Fdbk	Sweep Speed	Sweep Depth	Mix
Reverse Delay	Time	Fdbk	Mod Speed	Mod Depth	Mix

* POD HD400のみ利用可能

共通 FX3 パラメーター

FX3モデルのいずれかを対象にエディット・モードに入ると、ほぼ全てのケースで以下の共通パラメーターが表示されます([6・3ページ](#)で記載されているように「Model Select」と「Routing」も同様です):

TapCtl

◀▶ FX3:Tape Echo
⬆ TapCtl Don'tCtl

◀▶ FX3:Tape Echo
⬆ TapCtl Control

Controlに設定すると、全てのFX3モデルのディレイ・タイムが、**TAP**ボタンを使用して設定可能な現在のテンポに従います。あるいは、**Don't Ctrl**に設定し、手動でディレイ・タイムを設定します。以下のセクションをご覧ください。**TapCtl**設定は「グローバル」パラメーターであり、プリセットと共に保存されることはありません。[2・4ページの「タップ・テンポ」](#)も併せてご覧ください。

Time/Tempo

◀▶ FX3:Tape Echo
⬆ Time 500ms

◀▶ FX3:Tape Echo
⬆ Tempo 114.5bpm

ディレイ/エコーの繰り返す回数を設定します。以下の動作が当てはまります:

- **TapCtl**パラメーター(上記参照)を**Don'tCtl**に設定すると、このパラメーターは**Time**として現れ、**PRESETS**ノブでミリ秒(ms)単位で調整することができます。FX3モデルはこのms値を使用し、現在のテンポは無視されます。
 - **PRESETS**ノブを押したまま回し、値を20msずつ上げて調整します。
 - このTime値はプリセット内に保存されます。
- **TapCtl**パラメーターを**Control**に設定した場合、このパラメーターは**Tempo**として現れ、現在のタップ・テンポBPMを表示してそれに従います。**PRESETS**ノブを回し、1 BPMずつの単位で微調整することが可能です。
 - あるいは、**PRESETS**ノブを押しながら回してBPM値を最高値まで調整することもできます。
 - 仮に四分音符のリズムにしたい場合、そのリズムで**TAP**フットスイッチを踏めば、テンポが新たに設定され、FX3モデルはこの新しいBPM値に従います。

Feedback

◀ FX3:Tape Echo
 ▶ FdBk 40%

ディレイ/エコーを繰り返す回数を設定します。設定値を高くすると、繰り返す回数が増えます。

Mix

◀ FX3:Tape Echo
 ▶ Mix 50%

「ドライ」と「ウェット」信号のバランスを設定します。0%ではドライなギターサウンドだけ聞こえ、100%ではディレイ/エコーがかかった信号だけが聞こえます。

Reverbモデル - リファレンス表

以下のリファレンス表には、残響効果の高い全てのリバーブ・モデル用のパラメーターが記載されています。

Reverb モデル	パラメーター			
Plate	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Room	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Chamber	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Hall	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Echo	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Tile	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Cave	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Ducking *	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Octo	Decay	PreDelay	Tone	Mix

* POD HD400 のみ利用可能

共通 Reverb パラメーター

Reverbモデルのいずれかを対象にエディット・モードに入ると、それぞれに以下の共通パラメーターが表示されます(6・3ページで記載されているように「ModelSelect」と「Routing」も同様です):

Pre-Dly



リバーブ効果が聞こえる前の時間を構成します。

Decay



リバーブ効果の持続時間を設定します。

Tone



リバーブ信号の全体のトーンを調整します。設定値を高くすると、より明るく、さらに残響効果が増します。

Mix



ドライ & ウェット信号のバランスを0%(ドライ信号のみ)から100%(ウェット・リバーブ信号のみ)の間で設定します。Mixは、全てのリバーブに保持されます(別のリバーブ・モデルをロードしても、設定したMixレベルは変わらずにそのまま残ります)。

Wahモデル

以下が全Wahモデルのリストです。好みのWahモデルをエディット・モードの**Wah:Model Select**メニューから選びます([6・3ページ](#)参照)。ワウのエディット・モードのパラメーターはModel Selectのみです。POD HDオンボード・ペダルを使用するだけで、一般的なワウのように作動します!

Wahモデル
Vetta
Fassel
Chrome
Weeper
Conductor
Colorful
Throaty *
Chrome Custom *

* これらのWahモデルはPOD HD400のみ利用可能です。

ペダルを使用する

POD HDオンボード・ペダルでワウをコントロールするときは、ペダルの前方へいっぱいまで踏み込むと、「トウ・スイッチ」が入り、WAH LEDインジケーターが点灯します。[2・4ページの「ペダル・コントロール」](#)を参照してください。

FX1 Pitch Glideモデルをコントロールするように「WAH」ペダル機能を割り当てることも可能です。[6・8ページの「Pitch Glide」](#)をご覧ください。

ルーパーを使う

POD® HD300 & POD® HD400のルーパーには、最大24秒のモノ録音時間、オーバーダブ録音、オンデマンド式の再生能力等さらに多くの機能が用意され、全てが便利なフットスイッチの操作で機能します。

ルーパー・コントロール

ルーパー・モードに入ると、一番下の列に並ぶ4個のスイッチでルーパーをコントロールするため、ハンズフリーでルーパー機能进行操作することができます。以下がその詳細です：



1 **MODE** - このフットスイッチを入れると、真ん中の赤いLEDが点灯してルーパー・モードに入ります。スイッチの金色ラベルの右横に、ルーパー・モードでの機能がそれぞれ記されています。(MODEオプションについては、[1・3ページの「フットスイッチ・モード」](#)をご覧ください。)

2 **PRE/POST** - ループの録音中、アンプ& エフェクトの処理をギター信号に加えるか、あるいはループの再生にだけ加えるかは、このスイッチの切り替えで決定します。

- **PRE (スイッチは消灯):** ギター信号は処理されないまま録音されます(例 - ループはアンプ&エフェクト処理の「前」に録音されます)。再生すると、ループ・オーディオは、現在選択されているプリセットのアンプ & エフェクト処理を与えるために、入ってくるギターと共にミックスされます。PREに設定したままプリセットやトーン・セッティングを変更すると、変更したものがループ再生に適用されて聞こえるはずです。
- **POST (スイッチは点灯):** ギター信号は処理されて録音(例 - ループはアンプ& エフェクト処理の「後」に録音されます)。再生すると、ループ・オーディオは、アンプとエフェクトで処理された後のギター信号と共にミックスされます。これにより、ループが最初から録音されてあったプリセット・トーンを再生する際に、ギター入力だけに適用させるプリセットを新たに選択できるのです！

注意:「POST」モードで録音すると、アンプ & エフェクト・モデリングがドライ信号に実質的なゲインを多少加えることがあります。仮に、「POST」で録音したループの再生中に、設定を「PRE」に変更すると、アンプ& エフェクトの処理を再び受けて再生させることで、ゲインを2倍にすることになります。アウトプットは大音量になり、歪むかもしれません。新しいループを始める前に、再生が終わった時点でモードを選ぶのがベストです!

3 REC/OVERDUB - ループを録音するときは、このスイッチを踏むだけでルーパーは即座に録音を開始します。このスイッチを2度目に踏むと、Overdubモードを実行しながら録音されたループの再生を始めます(スイッチの LED が点滅して Overdub モードに入っていることを示します)。

録音したループが1つあれば、いつでもそのループの上にオーバーダブを重ねることができます。ループを再生して、点滅している**REC/OVERDUB**スイッチを踏むだけです。新しいライブ・ギターは、先に録音したループの上に重ねて録音されます。この手順を繰り返すだけで何回でも好きなだけオーバーダブを重ねることができます!

4 PLAY/STOP - 録音したループの再生を開始、または停止するときにこのスイッチを押します。積極的にループを録音する際にこのスイッチを利用すれば、押すだけで録音を停止し、ループの「アウト」ポイントを設定することができます。録音が停止し、新しく録音されたループの再生が直ちに始まります。

5 PLAY ONCE - このボタンを押すと、録音したループを1サイクル再生します。事前に録音したフレーズを要求が有り次第、起動させるには便利です!



TAP (ループの消去) - 「Looper」モードで**TAP**ボタンを押すと、録音したループ・オーディオはいずれも消去されます。ループの再生や録音がアクティブのときは、この機能で自動的に再生、録音は停止します。

注意: **MODE**スイッチがルーパー・モードに入っている場合、**TAP**ボタンを押しても、**POD HD**をチューナー・モードに入れることはできません。チューナーへアクセスするときは、先ず**MODE**スイッチをプリセットかペダルOn/Offモードへ設定し、それから**TAP**ボタンを長押ししてください。

USB オーディオ

この章ではPOD® HD300&POD® HD400のUSBオーディオ能力について説明します。Line 6 USBオーディオ・ドライバーをインストールすれば、Mac®やWindows®のための、質の高い24ビット・オーディオ・インターフェースとしてPOD HDを使用することができます。

Line 6 USB オーディオ・ドライバー

コンピュータにPOD HDを接続する前に、無償提供される**Line 6 POD HD300 Edit** か**Line 6 POD HD400 Edit**ソフトウェアをダウンロードし、インストールしておくことをお勧めします。これにより、必要なUSBオーディオ・ドライバーとLine 6 Monkey®アップデート・ユーティリティがインストールされます([A・1ページの「付録 A: Line 6 Monkey™」](#)参照)。

注意:POD HD300 & HD400の USBデバイス・ドライバー・バージョン 5.7.0、Mac OS® X 10.4 (Tiger®)のサポートは既に終了しました。Mac®のOS® X 10.4でPOD HDのUSB接続を使用する場合は、<http://line6.jp/software/>からダウンロード可能な、POD HD300/HD400ドライバー・バージョン 5.1.2をインストールする必要があります。



POD HD400 Editソフトウェアを選択するLine 6ソフトウェア・ダウンロード・サイト

インストールが終了したら、コンピュータのUSBポート(USBハブへは接続しないでください)へ直接デバイスを接続し、POD HDの電源を入れます。

詳細は、<http://line6.com/support/manuals>から入手可能なPOD HD Edit インSTALL ガイドとパイロット・ガイドをご覧ください。

オーディオ・ルーティング

POD HD のUSB接続を使用すると、オーディオ・ドライバーはいくつかの作業を管理できるようになります。ドライバーは、処理されたギター信号をUSB Record Send からコンピュータへ送り、コンピュータから再生オーディオを受け取ります。また、低レイテンシ・モニター信号を与えるために、処理されたギター信号がRecord Sendへルートを切る前に捉えます。次にそのモニター信号を再生オーディオと共に合わせます。そしてこの合わせた信号をPOD HDアナログ・アウトプットへ送るのです。

L6 LINK™接続が、POD HDとDTシリーズ・アンプの間でアクティブの場合、全てのUSBオーディオはミュートされます。L6 LINKの詳細は、<http://line6.com/support/manuals/>から入手可能な追加の文書をご覧ください。



Line 6 USBオーディオ・ドライバーが提供する USBオーディオ・ルーティング

POD HDの Record Send

上記で示すように、Record Sendは、POD HDが処理したデジタル信号をUSB接続により運ぶ、仮想の「パイプライン」です。オーディオ・ソフトウェアがレコーディングのために入力信号として利用できるようにするのが目的です。(USB Record Send信号もまた、Output Modeオプションによってコントロールされることに注意してください。[2.6 ページの「OUTPUT MODE オプション」](#)参照)

オーディオ・ソフトウェアの中でPOD HDデバイスと Record Sendが表示されます。このSendをトラックの入力に選ぶだけで、POD HD信号を録音することができます。Sendに送られる信号レベル(レコーディング・トラックの中に受信するレベル)は、アンプ・モデルDRIVE & VOLUME、エフェクト・モデルGAINコントロール、ボリューム・ペダル等のPOD HDの出力レベルから影響を受けます。

モニター・レベル

コンピュータとPOD HDで録音を行う際に、ギターモニター信号と再生オーディオとのバランスをとることが必要になるケースがよくあります。これを解決するために、モニター信号に対する独立したボリューム・コントロールを提供できるUSB Monオプションが**SETUP**メニューの中に用意されています。[1.2ページの「USBモニター・レベル」](#)を参照してください。

録音にPOD HDをオーディオ・インターフェースとして使用すると、DAWソフトウェアもまたそれ自身の「ソフトウェア・モニタリング」機能を提示してきます。DAWトラックでプラグ・インと共に処理したギター信号を聞きたい、というような場合には、DAWのソフトウェア・モニタリング機能を使用するのが良いでしょう。DAWソフトウェア・モニタリングを使用する場合は、このスライダーのレベルを0%に設定して、DAWソフトウェア・モニタリング信号だけが聞こえるようにします。

Line 6 Audio-MIDI Devices パネル

Line 6 Audio-MIDI Devicesユーティリティは、様々なオーディオ・ドライバー・セッティングを参考し構成する場所です。Line 6 Audio-MIDI Devicesダイアログの中のオプションは、Mac®とWindows®システム間では多少異なります。以下の説明を参照してセットアップに合わせてください:

- **Mac®:** 次のセクションをご覧ください。
- **Windows®:** [8.1ページの「Line 6 USB オーディオ・ドライバー」](#)をご覧ください。

Mac® - Line 6 Audio-MIDI 装置



Mac®「システム・プリファレンス」の中からLine 6 Audio-MIDI Devicesを起動します。このユーティリティからいくつかのオプションにアクセスします。

Line 6 Audio-MIDI 設定 - Driver オプション (Mac®)

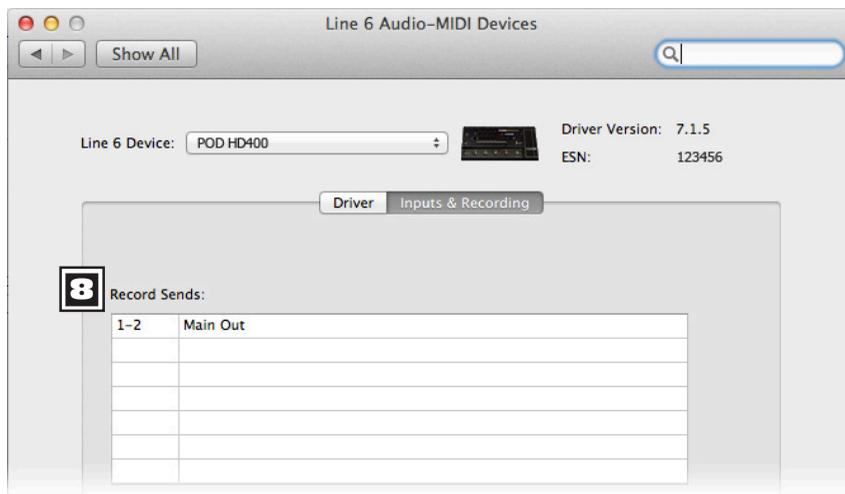
このウィンドウ内には、ドライバーおよびインプット&レコーディングの二つの画面が用意されています。



Line 6 Audio-MIDI設定画面、ドライバー画面

- 1 Device セレクター:** ここでPOD HDを選びます。Line 6対応のオーディオ・デバイスを2台以上接続している場合は、このリストの中からそれぞれを選ぶことができます。
- 2 Driver Version:** 現在そのデバイスにインストールされているドライバー・バージョン・ナンバーが表示されます。
- 3 ESN:** 現在接続されているデバイス独自のエレクトロニック・シリアル・ナンバーが表示されます。

- 4** **ドライバー - インプット&レコーディング画面セクター:** これらのボタンを選択し、ウインドウ内に表示されているお使いのデバイスの各オプションを表示させてください。
- 5** **Run Audio-MIDI Setup:** Mac® Core Audioインターフェース・ドライバー設定は、Mac OS® XオーディオMIDIセットアップ・ユーティリティの中で構成されます。このボタンを押すとこのダイアログが表示されます ([8・6ページの「Mac OS® X オーディオ MIDI セットアップ・ユーティリティ」](#) 参照)。
- 6** **Sample Rate Converter Active:** デバイスが本来の48kHz以外のサンプルレートで操作されると、このインジケーターが点灯します。POD HDは内蔵サンプルレート・コンバーターの利用により、48kHzに加え、44.1kHz、88.2kHz、96kHzのレートもサポートしています。オーディオ・サンプルレートの設定に関する詳細は、使用するソフトウェアの説明書で確認してください。
- 7** **USB Audio Streaming Buffer:** このスライダーを使用して、入力モニター信号のオーディオ反応に合わせてバッファサイズを調節します。基本的に、デフォルト設定はほとんどのシステムに対して問題がありません。しかしオーディオがドロップアウトしたり、システム上で大量のCPUデマンドを課している場合は、スライダーの目盛りを1つか2つ右へ上げて負担を軽減させてください。

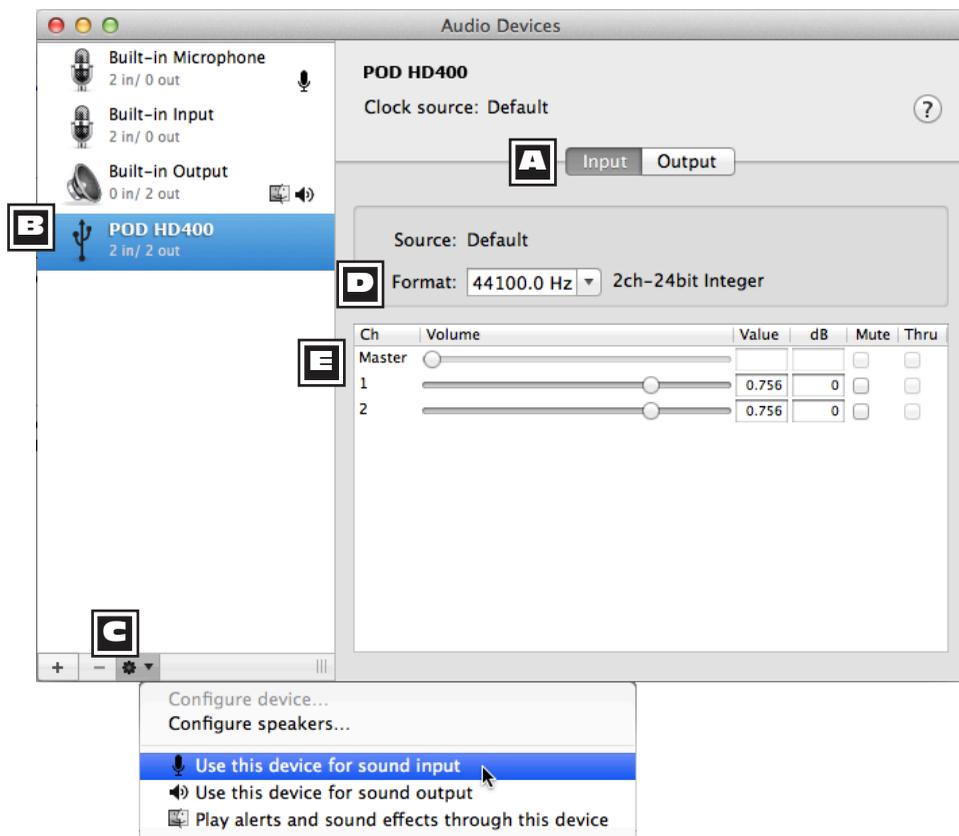


Line 6 Audio-MIDI設定画面、インプット&レコーディング画面

- 8** **レコード・SEND・リスト:** お使いのオーディオソフトウェアで使用可能なLine 6のレコード・SENDがここに表示されます。POD HD300/HD400の場合、「1-2 Main Out」のレコード・SENDが表示されます。

Mac OS® X オーディオ MIDI セットアップ・ユーティリティ

POD HDはMac® Core Audioドライバー・タイプを利用しているため、実際にどのようなMac®オーディオ/マルチメディア・ソフトウェアに対しても、オーディオ・インターフェースとして互換性を備えています。大部分のCore Audioデバイスと同様に、オーディオMIDIセットアップ・ダイアログのページからいくつかのセッティングを見つけることができます。このウィンドウにはインプットおよびアウトプットの2つの画面があることに注目してください。各画面において似たような選択肢が表示されますが、各セッティングはデバイスのインプットおよびアウトプットのドライバーに付随しています。



オーディオ MIDI セットアップ・ユーティリティの入カスクリーン (Mac OS® X10.6 以降*)

注意:Mac OS® X 10.5の中のオーディオ MIDIセットアップ・ユーティリティ・ウィンドウのレイアウトは多少異なりますが、ここで説明する通り、提供するオプションと機能は同じです。

- A** **インプット-アウトプット画面セレクトター:** ウィンドウ内の各オプションを表示させるには、これらのボタンを使用します。
- B** **デバイス・リスト:** リスト内のPOD HD300/POD HD400のデバイスを選択し、ウィンドウ内にセッティングを表示させてください。
- C** **デフォルト・オーディオ・デバイス・オプション:** POD HDを、Mac®アプリケーション*におけるデフォルトのインプット/アウトプット・オーディオ・デバイスとして設定するには、デバイス・リストでお使いのPOD HDデバイスを選択した状態で、小さなギア型アイコンのボタンをクリックしてください。これらのオプションのいずれかを選択した場合、上記のデバイス・リストのPOD HDの右側に各アイコンが表示され、デフォルトのデバイスとして設定されていることが表示されます。

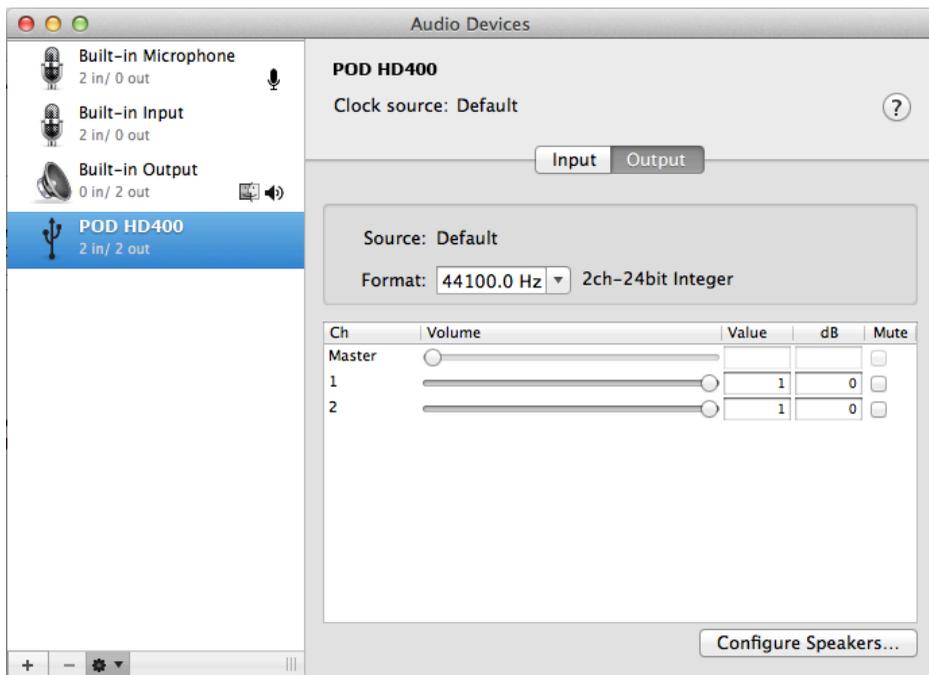
*DAWアプリケーションの多く(GarageBand、Logic、Ableton Live等)は、ここで設定したセッティングとは独立して、各自のプリファレンス内からオーディオのインプット/アウトプットのデバイスを設定できるようになっています。

- **Use this device for sound input:** POD HDを、Mac®のアプリケーションにおけるオーディオ・レコーディング用のデフォルトのインプット・デバイスとして使用したい場合、このオプションを選択してください。
 - **Use this device for sound output:** Mac®のアプリケーションでPOD HDをデフォルトのアウトプット・デバイスとして使用したい場合(iTunes®等)、このオプションを選択してください。
 - **Play alerts and sound effects through this device:** このオプションは、選択したデバイスからシステム・アラート音が出るように設定します。POD HDのギターの音と共にMac®のアラート音を大音量で出したくない限り、この機能は使わない方が良いでしょう。
- D** **フォーマット:** このオプションはPOD HDによるレコーディング(インプット画面の場合)および再生時(アウトプット画面の場合)のサンプルレート*およびビットデプスを表示します。POD HDのビットデプスは24ビットで固定されています。

*オーディオのソフトウェアが動作している状態で、このウィンドウからサンプルレートを変更するのは推奨されません。一般的には、お使いのオーディオ・ソフトウェアの独自のプリファレンス・セッティングからサンプルレートの変更を行います。

ボリューム・スライダー: 選択されているデバイスのレベルを調整する為のスライダーです。

- オーディオ・デバイスの**インプット**画面を表示している場合(上記参照)、レコーディングのソフトウェアに送られるレコード・SEND信号はスライダーによってコントロールされます。これらスライダーを使用してDAWソフトウェアのレコーディング・レベルを微調整することができます。必要に応じ、これらのスライダーを使ってインプット信号を最大+18dBブーストすることができます。
- オーディオ・デバイスの**アウトプット**画面を表示している場合(下記スクリーンショット参照)、ソフトウェアからPOD HDへ出力されるステレオのレベルをスライダーによってコントロールします。ギターの入力信号に対して、これらのスライダーを使ってUSBのプレイバックのオーディオを独立して調整することができます。



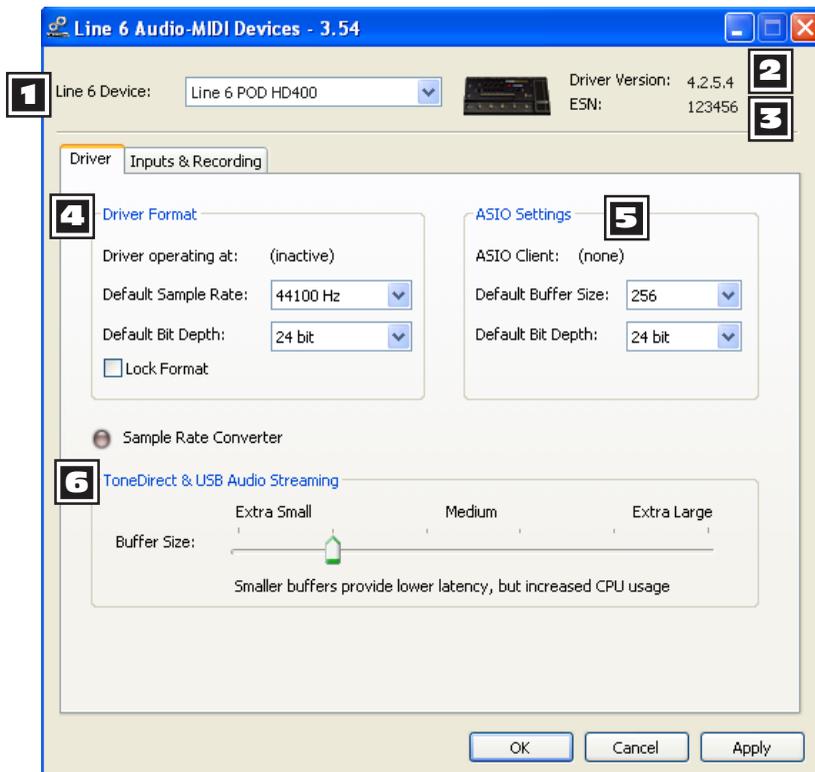
Audio-MIDI設定ユーティリティ、アウトプット画面(Mac OS® X 10.6 以降*)

Windows® - Line 6 Audio-MIDI デバイス

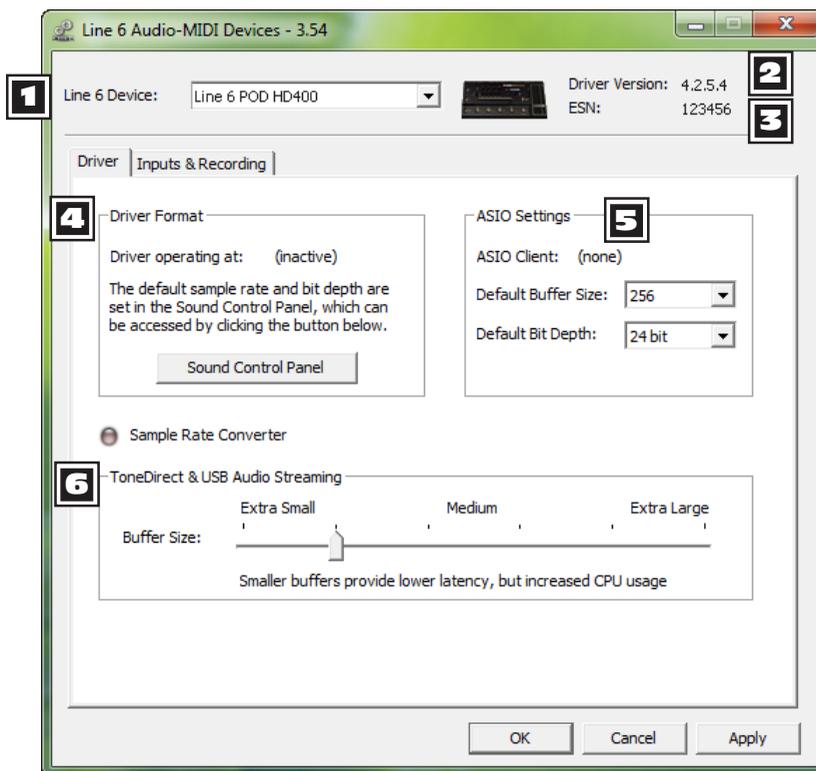
特に明記しない限りWindows® XP、Windows Vista®やWindows® 7の以下の設定は同じです。

Windows®コントロール・パネルの中からLine 6 Audio-MIDI Devicesを起動します。Windows®システム上でPOD HDは、オーディオ・ソフトウェア・アプリケーションとの互換性を最大限に発揮するために、DirectSoundとASIO®デバイス・ドライバーの両方を提供しています。使用されるオーディオ・ソフトウェアが、ASIO®オーディオ・ドライバーに対応しているのであれば、より高いパフォーマンスを得るためにも、このドライバーを選択することをお勧めします。ASIO®ドライバーのセッティングを促す表示が出たときは、そのダイアログの表示箇所を設定を行います。Line 6 Audio-MIDIデバイスのダイアログには、ドライバーおよびインプット&レコーディングの2つのタブ画面が用意されています。

Line 6 Audio-MIDI デバイス - ドライバー・タブ



Line 6 Audio MIDI Devices - ドライバー・タブ(Windows® XP)



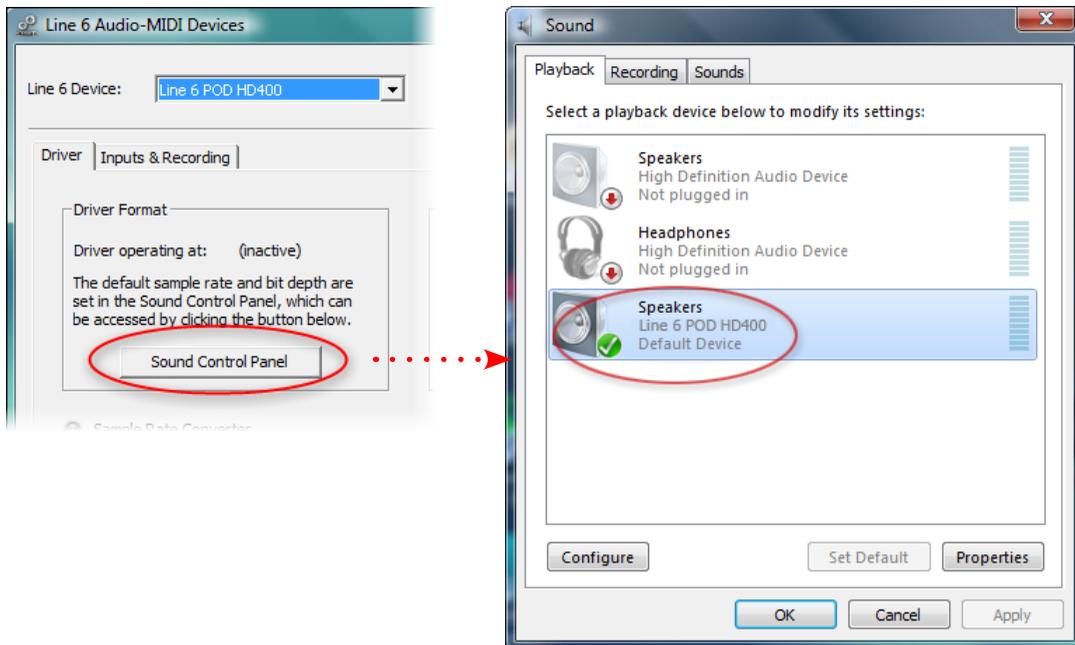
Line 6 Audio-MIDIデバイス - ドライバー・タブ (Windows® 7 and Vista®)

- 1 Device セレクター** - ここでPOD HDを選びます。Line 6対応のオーディオ・デバイスを2台以上接続している場合は、このリストの中からそれぞれを選ぶことができます。
- 2 Driver Version** - 現在そのデバイスにインストールされているドライバー・バージョン・ナンバーが表示されます。
- 3 ESN** - 現在接続されているデバイス独自のエレクトロニック・シリアル・ナンバーが表示されます。
- 4 Driver Format (Windows® XP)** - これらのオプションは、アプリケーションがWindows® DirectSound®ドライバー経由でPOD HDデバイスを使用するときのみ適用可能です。ASIO®ドライバーを経て使用する場合、これらのオプションは選択不可能です。

- **Driver operating at:** オーディオ・アプリケーションで使用する際に、ドライバーが実際に使うサンプル・レート&ビット深度を表示します。
- **Default Sample Rate & Bit Depth:** POD HDをオーディオ・インターフェースとして使用する際に、アプリケーション(ASIO® 以外)が使用するデフォルトのサンプル・レート&ビット深度を、このオプションで設定します。
- **Lock Format:** チェックを入れると、DirectSound®ドライバーは(Windows®オーディオ・アプリケーションによって要求されたサンプル・レートに従うことに反して)常に、2つ前のダイアログで設定したサンプル・レートとビット深度で動作します。

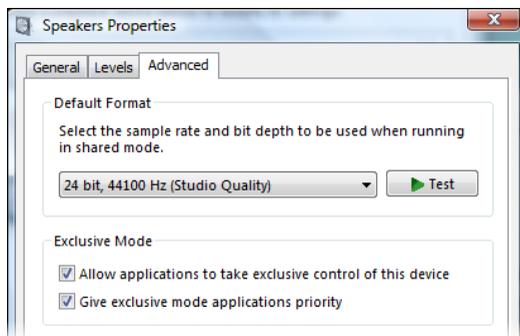
4 ドライバー・オペレーション (Windows® Vista & Windows® 7)

Windows® VistaとWindows® 7には、**サウンド・コントロール・パネル**ボタンが見えるはず。これをクリックするとWindows®サウンド・パネルが起動します。全てのWindows®マルチメディア・プログラムで、POD HDをそのサウンド・カード・デバイスとして利用したい場合は、サウンド・パネルの再生と録音タブ内で、「デフォルト」オーディオ・デバイスとして指定することができます。



デフォルト・プレイバック・デバイスとして選択した
POD HD400

Soundダイアログの中の**プロパティ**ボタンをクリックして、Windows®マルチメディア・アプリケーションと共に使用したPOD HDサンプル・レートとビット深度のデフォルト・フォーマット設定にアクセスすることもできます。(Line 6デバイス用にASIO®ドライバーを使用するように設定したオーディオ・アプリケーションを使用すると、ASIO®は直接そのデバイスと通信を行うようになり、これらの「デフォルト・フォーマット」の設定が適用されないことに注意してください。)



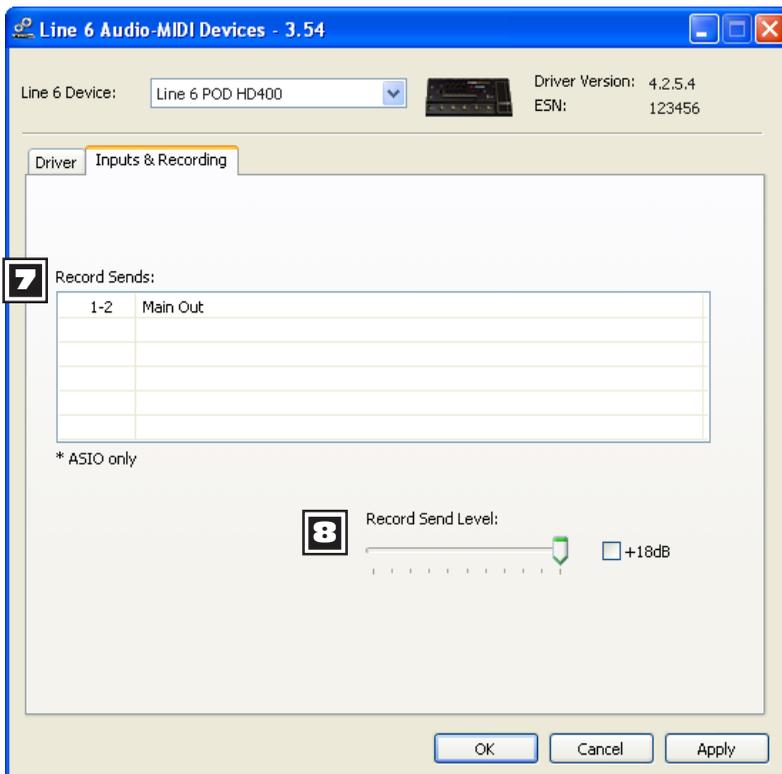
Window Vista/7コントロール・パネル>サウンド>プロパティ - アドバンス・タブ

5 ASIO® ドライバー設定

- **ASIO® Client:** POD HDをASIO®オーディオ・デバイスとして使用しているオーディオ・ソフトウェアを実行している場合、そのソフトウェアの名称がここに表示されません。
- **Buffer Size:** 使用中のASIO®バッファ・サイズ ASIO®バッファ・サイズが DAWソフトウェアの「応答性」と「レイテンシ」に影響を与えます。設定が低ければ低いほど応答速度はより速くなります。しかしそのプロセッサの高い使用量と引き換えにオーディオ・ドロップアウトの危険性が増します。オーディオ・ソフトウェアの再生や録音にばらつきがある場合は、値を上げてください。一般的に最初は、256に設定するのが良いでしょう。
- **Bit Depth:** 使用中のASIO®ビット深度 ここでは24ビットで使用することをお勧めします。

6 USB Buffer Size - このスライダーを使用して、入力モニター信号のオーディオ反応に合わせてバッファサイズを調節します。基本的に、デフォルト設定はほとんどのシステムに対して問題がありません。しかしオーディオがドロップアウトしたり、システム上で大量のCPUデマンドを課している場合は、スライダーの目盛りを1つか2つ右へ上げて負担を軽減させてください。

Line 6 Audio-MIDIデバイス - インput&レコーディング・タブ



Line 6 Audio-MIDIデバイス - ドライバータブ
(ここではWindows® XPを表示。Windows® 7 および Vista® も同様です)

7 **レコード・センド・リスト:** オーディオ・ソフトウェア内で、現在使用可能なLine 6デバイスのレコード・センドが表示されます。POD HD300/HD400の場合はステレオの「1-2 Main Out」のレコード・センドが表示されます。

8 **レコード・センド・レベル:** このスライダーにより、レコード・センド経由でコンピューターに送られるPODの信号レベルを独立して調整することができます。これはオーディオ・ソフトウェアに録音される信号レベルに直接影響します。また必要であれば、+18dBのチェックボックスにチェックを入れることでオーディオ・ソフトウェアに送られる信号のレベルをブーストすることが可能です。

付録 A: LINE 6 MONKEY™



Line 6 Monkeyは、無償で提供されるインテリジェントなアップデーター・ソフトウェアです。全てのLine 6製品を常に最新のバージョンに更新することができます。Line 6 Monkeyは、POD® HD300/HD400 USBデバイス・ドライバーと共にMac®やWindows®コンピュータに自動的にインストールされます。まだUSBデバイス・ドライバーをインストールされていないのでしたら、POD HDをコンピュータと共に活用するためには、すぐにでも入手する必要があります。[8・1ページの「USB オーディオ」](#)を参照してください。Line 6 Monkeyを定期的に起動させて最新のアップデートを確認し、インストールすることをお勧めします。

A・1

Line 6 Monkeyを起動する

POD HDをコンピュータのUSBポートへ接続してからデバイスの電源を入れてLine 6 Monkeyを起動します:

- Mac®の場合、アプリケーション/Line 6/Line 6 Monkeyへと進みます。
- Windows®の場合、スタートメニュー\プログラム\Line 6\Tools\Line 6 Monkeyへと進みます。

特に明記しない限り、以下の手順はMac®やWindows®上で同じです。

ログイン・アカウント

Line 6 MonkeyがLine 6とコミュニケーションをとり、必要なものを提供できるように、まずはログインを行います。何回かクリックするだけ、それに無料です！ まだアカウントを作成していない場合は、**New User**ボタンをクリックして、アカウント作成手順に進みます。

User Name Password: Remember Me

 Please click the 'Updates' tab below to get updates

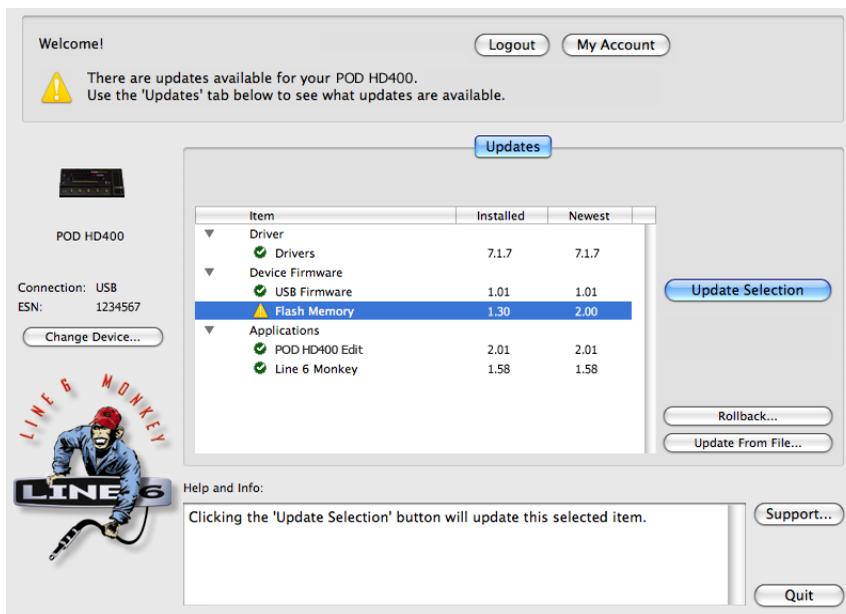
ハードウェアを登録する

まだ登録がお済みでない場合は、接続したLine 6ハードウェアの登録を促すダイアログがここで表示されます。本当に簡単な手順です。ここで**Register**ボタンをクリックしてください。



アップデートを入手する

入手可能な新しいアイテムとしてより新しいバージョンがある場合は、そのアイテムをクリックして、あなたのMonkeyにインストールの手順を案内させてください。これが、最新のドライバ、ファームウェア&アプリケーションを常備する最も簡単な方法です。



Line 6 Monkey - POD HD400のUpdates画面

例として、上記のスクリーン・ショットは Monkey がより新しいファームウェアを発見したことを示しています。フラッシュ・メモリー・バージョンが接続したPOD HD400に入手可能です。このシナリオでは、Flash Memoryアイテムを選び、**Update Selection**をクリックします。画面に表示されるメッセージを注意して読んでください。あとしばらくで、Monkey がアップデートの操作をお手伝いします。アップデートが全て完了するまでは、デバイスのコントロールと接続ケーブルには、触れないようにすることが特に重要です!

付録 B: MIDI

この章ではPOD® HD300 & POD® 400 MIDI 機能について説明します。これら両方のPOD HDデバイスに、USB接続を通じてMIDI System Exclusiveデータを送受信する機能が含まれています。

MIDI SysEx 機能

POD HDは、USB接続を利用してプリセット・データのMIDI System Exclusive (SysEx) 「ダンプ」を送受信します。これにより、Mac®やWindows®コンピュータ上で他社のSysExアプリケーションを使用しても、デバイスのプリセットを捉え、バックアップや、復元することも可能になります。

注意:代わりに、無償提供されるLine 6 POD HD Edit パッチ・エディター/ライブラリアンソフトウェアをダウンロードして、プリセットのバックアップと復元に使用することもできます。詳細は、[2・7ページの「POD HD Edit ソフトウェア」](#)をご覧ください!

コンピュータと共にPOD HDを使用する前に、Line 6 USBデバイス・ドライバーをダウンロードし、インストールする必要があります。[8・1ページの「USBオーディオ」](#)をご覧ください。

MIDI SysEx ソフトウェア

MIDI SysExデータを送受信するためには、その機能を持つ、MIDIソフトウェア・ユーティリティをコンピュータにインストールしておく必要があります。このようなアプリケーションは数多く市販されていますが、以下のような(無料)アプリケーションが良いでしょう:

- **Snoize SysEx Librarian** Mac®の場合 - www.snoize.com/
- **MIDI-OX** Windows®の場合 - www.midiox.com/

これらのアプリケーションの使い方はとても簡単です: アプリケーションの中で利用可能なPOD HDのMIDI InputとMIDI Outputポートをsend & receive、to/fromの項目に選ぶだけです。* 他のオプションについては、アプリケーションのヘルプを参照してください。

注意: POD HDは、MIDI データの送受信を常にMIDIチャンネル 1に限って行います。そのため、ソフトウェアがこのチャンネルで送受信するように設定されていることを、必ず確認しておく必要があります。

MIDI Dump - プリセットをバックアップする

MIDIダンプを実行するときは、POD HDをコンピュータのUSBポートへ接続し、MIDIソフトウェアがMIDIデータをデバイスから受信するように準備します。PODHDの[4.1ページの「エディットモード」](#)に入り、**MIDI**メニューへ進みます。以下のオプションが用意されています:



- **Dump Current** - 現在読み込まれているプリセット用のデータだけを送ります。
- **Dump All** - 全ての128プリセットに全データを送ります。

気に入ったDumpオプションを選び、**TAP**フットスイッチを踏むと、MIDI SysExデータが直ちにコンピュータへ送られます。ダンプが終了したら、ファイル名を入力し、SysExファイルを保存します。SysExファイルは今後いつでも選択して、POD HDへ送り、そのプリセットをデバイスへ送信させることができます。

プリセットを送り返す

コンピュータに1つ、または複数のPOD HD SysExダンプ・ファイルが保存されている場合、気に入ったファイルを開くか、選択し、MIDI データを接続したPOD HDへ送るように、MIDIソフトウェアを構成することができます。

1つのプリセットを復元する

1つのプリセットを含むSysExファイルを選択した場合(例-ファイルの作成に上記のMIDI「Dump Current」設定を使用):

- プリセットをインポートしたい、POD HD上のプリセットの位置を呼び出します。
- POD HDに特別な「受信モード」設定は設けられていませんので、常に MIDIを受信します。
- 選択したSysExファイルの送信は、MIDIソフトウェア内から実行されます。
- 新しいプリセットは、選択したプリセット位置に読み込まれた状態で聞くことができます。
- **サウンドの保存** - 新しく復元した設定は、そのプリセットを保存しない限りデバイスのプリセット位置に保持することができません。

全てのプリセットを復元する場合

128プリセットを含むSysExファイルを選択すると(例 - 上記のMIDI「Dump All」設定を使用してファイルを作成した場合)、このデータをPOD HDに送り、直ちに**存在するプリセット全てを置き換える**ことができます:

注意: デバイス内に存在するプリセットを上書きで永久的に失う前に、[B・2ページの「MIDI Dump - プリセットをバックアップする」](#)の手順に従ってバックアップしておくのも良い考えです!

- POD HDで選択する特別な「受信モード」設定は設けられていませんので、常にMIDIを受信します。
- 選択したSysExファイルの送信は、MIDIソフトウェア内から実行されます。
- この送信の進行状態は、ソフトウェアで示されます。終了するまで数秒間かかることがあります。
- 終了後、新しいプリセットは、デバイスの中の全ての128プリセット位置に読み込まれているのを確認でき、また聞くことができます。
- これでこれらのプリセットは、デバイスの中に永久的に保存されたことになるため、保存操作を行う必要はありません。

